令和５年度

全国学力・学習状況調査の結果

目次

１．令和５年度全国学力・学習状況調査の実施概要・・・・・・・・・2

２．教科に関する調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

（１）小学校国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

（２）中学校国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

（３）小学校算数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

（４）中学校数学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

（５）中学校英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

３．質問紙調査結果（児童生徒、学校）　・・・・・・・・・・・・18

（１）学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況・・・18

①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善　・・・・・・・18

②個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する状況 21

③カリキュラム・マネジメントに関する取組状況　・・・・・・・・21

（２）英語の学習状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

①学校における言語活動等の取組状況　・・・・・・・・・・・・・22

②英語学習に対する興味・関心や授業の理解度等　・・・・・・・・25

③授業外における英語学習の取組　・・・・・・・・・・・・・・・27

（３）ICTを活用した学習状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・28

①ICTの活用状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

②個別最適な学び（個に応じた指導）や主体的・対話的で深い学び
におけるICTの活用状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

③ICTの活用を推進するための有効な取組　・・・・・・・・・・・32

（４）児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況・33

４．文部科学省の主な取組一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

１．令和５年度全国学力・学習状況調査の実施概要

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

○**全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析**することによって、**国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析**し、その改善を図る

○**学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等**に役立てる

○そのような取組を通じて、**教育に関する継続的な検証改善サイクル**を確立する

調査概要

◆**調査日時**：令和５年４月18日（火）

◆**調査事項**：①児童生徒：教科調査〔国語、算数･数学、英語（中学校）〕、質問紙調査
②学校：質問紙調査

◆**調査対象及び集計対象 児童生徒数・学校数**：

	小学校				中学校			
	調査対象児童数(※1)	集計対象児童数(※2)	調査対象学校数	集計対象学校数(※2)	調査対象生徒数(※1)	集計対象生徒数(※2)	調査対象学校数	集計対象学校数(※2)
公立	1,019,859人	964,350人	18,672校	18,619校 (99.7%)	983,778人	893,528人	9,408校	9,339校 (99.3%)
国立	6,396人	6,191人	75校	75校 (100%)	9,968人	9,262人	80校	78校 (97.5%)
私立	13,190人	6,804人	244校	127校 (52.0%)	81,836人	21,191人	799校	285校 (35.7%)
合計	1,039,445人	977,345人	18,991校	18,821校 (99.1%)	1,075,582人	923,981人	10,287校	9,702校 (94.3%)

（※1）調査対象児童生徒数について、公立及び国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和４年度学校基本調査による。調査当日までに増減した可能性がある。

（※2）集計対象児童生徒数・学校数は、4月18日に調査を実施した数。集計対象児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科（小学校：算数、中学校：英語）の解答用紙の枚数で算出。

◆**調査問題**

・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
・各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

◆**今年度の調査の特徴**

・中学校で４年ぶり２度目となる英語の教科調査を実施。
（「話すこと」調査については、1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施。）
・質問紙調査について、学校質問紙は全ての学校で、児童生徒質問紙は約80万人を対象として、オンライン方式により実施。

教科に関する調査結果概要

◆**全国（国公私）の平均正答数・平均正答率（※1）**

	小学校		中学校			
	国語	算数	国語	数学	英語(※2)	英語「話すこと」(※2)
令和５年度	9.4/14問 (67.4%)	10.0/16問 (62.7%)	10.5/15問 (70.1%)	7.7/15問 (51.4%)	7.8/17問 (46.1%)	0.6/5問 (12.4%)
【参考】令和４年度	9.2/14問 (65.8%)	10.1/16問 (63.3%)	9.7/14問 (69.3%)	7.3/14問 (52.0%)	11.9/21問 (56.5%) (※3)	1.5/5問 (30.8%) (※3)

（※１）各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、**過年度の結果と単純に比較することは適当ではない**ことに留意。

（※２）中学校英語の調査結果は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。
英語「話すこと」調査の結果については、文部科学省が当日実施校として指定した一部の中学校（500校）において、４月18日（火）に英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」全ての調査を実施した生徒のうち、１回目で正常に全ての音声データが登録された生徒（499校、41,966人）の結果をもとに平均正答率等の全国値を推定。

（※３）中学校英語及び英語「話すこと」については、前回実施時（平成31年度）の数値。また、平成31年度の英語「話すこと」は「参考値」として集計。

2．教科に関する調査結果

(1) 小学校国語

◇…比較的できている点
◆…課題のある点

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視した。

結果概要

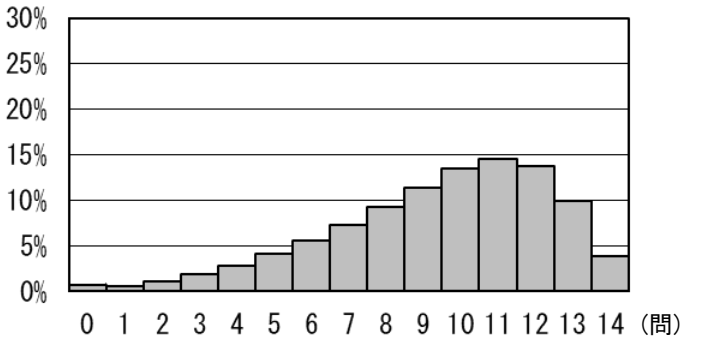
◇話や文章の中心となる語や文を捉えることは比較的できている。
◆複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	71.3
		情報の扱い方に関する事項	2	63.5
		我が国の言語文化に関する事項	0	—
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	72.8
		書くこと	1	26.8
		読むこと	3	71.4
評価の観点		知識・技能	7	69.1
		思考・判断・表現	7	65.6
問題形式		選択式	9	73.7
		短答式	2	62.9
		記述式	3	51.2

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.4問/14問	67.4%	10.0問	2.9問	11問



（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

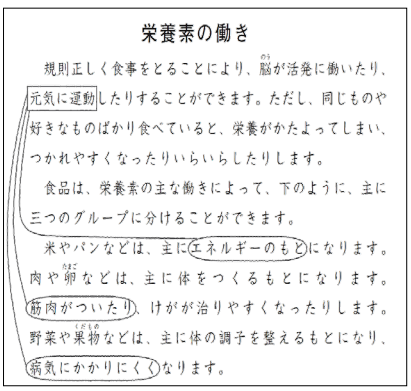
学習指導要領の内容別の主な特徴と指導改善のポイント

情報の扱い方に関する事項

◆情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。

具体的な設問例（大問２三）

運動面から健康について考えている相田さんが書きこみをした「栄養素の働き」に関するパンフレットを読み、相田さんの情報の整理の仕方として、最も適切なものを選ぶ。



栄養素の働き

規則正しく食事をとることにより、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものや好きなものばかり食べていると、栄養がかたよってしまい、つかれやすくなったりいらいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主にエネルギーのもとになります。
肉や卵などは、主に体をつくるもとになります。
筋肉がついたり、けがが治りやすくなったりします。
野菜や果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、病気にかかりにくくなります。

【相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ】の一部

正答率： 62.2%

1　自分にとって分からない言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。　…3.3%

2　自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。　…29.6%

3　自分にとって分からない言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。　…3.2%

4　自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

誤答例の分析と課題

「２」を選んだ児童は、相田さんが自分にとって重要な言葉を整理していることを捉えることはできたが、運動と栄養素の働きとを関連付けていることを捉えることができなかったと考えられる。

指導改善のポイント

情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導すると効果的である。

☞「令和５年度【小学校国語】報告書」 大問２ 授業アイディア例
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23plang_idea_02.pdf#page=13

話すこと・聞くこと

◇必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることはできている。

具体的な設問例（大問３一(2)）　学校ボランティアにインタビューをしている谷さんが、下線部イのように質問した理由を選ぶ。

正答率： 74.2 %

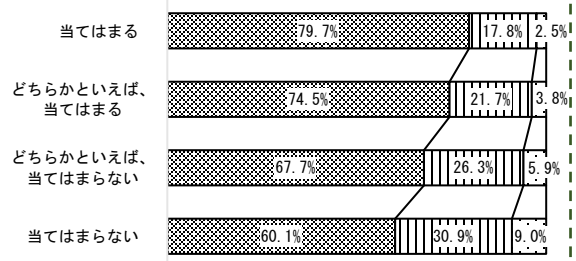
谷さん

イ　すてきな姿というのは、どのような姿ですか。

1　相手の活動の予定を、より具体的に知るため。　…6.9%
2　相手の話の内容をより具体的に知るため。
3　自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。…7.8%
4　自分の行動が可能かどうかを相手に確かめるため。　…7.0%

クロス集計

児童質問紙における質問項目「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか」の選択肢ごとの、本設問における児童の解答状況（%）



この質問に肯定的に答えた児童の方が、大問３一(2)を正答している割合が高い。このことから、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめるなどの学習活動を充実させることが重要であると考えられる。

書くこと

◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

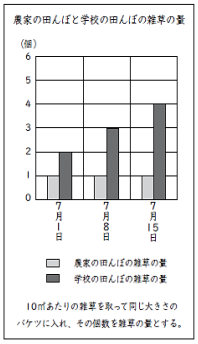
具体的な設問例（大問１二）　【川村さんの文章】の［　　］に、下の条件に合わせて、学校の米作りの問題点とその解決方法について書く。

正答率： 26.8 %

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア<u>いがい</u>に雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイ<u>くらべて</u>みました。ウ<u>きかん</u>は7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



【川村さんの文章】の一部

〈条件〉
・問題点については<u>【川村さんの文章】のグラフと【カード④】のそれぞれから分かることを書く</u>。
・問題の解決方法は【カード⑤】をもとに書く。
・60字以上100字以内で書く。　※【カード④】【カード⑤】は紙面の都合上省略

〈正答例〉
グラフから分かるように、<u>学校の田んぼでは雑草が増え続けていた</u>ため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。（100字）

〈誤答例〉
グラフから分かるように、<u>農家も雑草が生えています</u>。このままだと雑草に栄養をとられて米のしゅうかくが減るかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草を取る回数と人数を増やしました。（92字）　･･･19.1%

誤答例の分析と課題

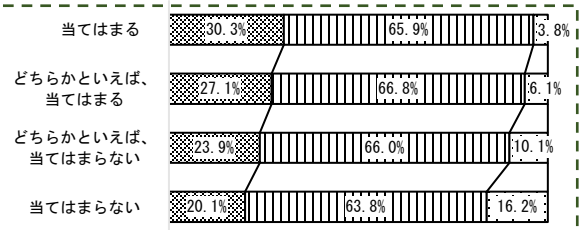
このように解答した児童は、【川村さんの文章】のグラフから分かる「<u>雑草の量が増え続ける</u>」という学校の米作りの問題点を書いていない。他にも【カード④】から分かることを書いていない誤答が18.4%あり、<u>グラフと【カード④】のいずれかの情報しか取り上げていない</u>ために誤答となってしまった児童は、あわせて37.5%になる。グラフを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。

指導改善のポイント

必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように指導すると効果的である。

クロス集計

児童質問紙における質問項目「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていますか」の選択肢ごとの、本設問における児童の解答状況（%）



この質問に肯定的に答えた児童の方が、大問１二を正答している割合が高い。このことから、書いた文章の感想や意見を学校の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるなどの学習活動を充実させることが重要であると考えられる。

☞「令和５年度【小学校国語】報告書」 大問１ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23plang_idea_01.pdf#page=12

読むこと

◇目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したものを選択することはできている。

具体的な設問例（大問２一）　【資料１】と【資料２】に書かれている内容として最も適切なものを選ぶ。

私たちが日ごろ行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。

【資料１】より抜粋

運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがリフレッシュするなどの効果もあります。

【資料２】より抜粋

正答率： 90.1%

1	運動の効果や種類	
2	運動の回数や場所	…1.4%
3	運動の場所や種類	…2.7%
4	運動の効果や回数	…4.5%

◆複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題がある。

具体的な設問例（大問２四）　【資料１】、【資料２】、【資料３】を読み、運動と食事について分かったことをもとに、下の条件に合わせて、これから自分ができそうなことをまとめて書く。

【資料３】より抜粋
※【資料１】【資料２】は上記の具体的な設問例に掲載

正答率： 56.4%

〈条件〉
・資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書く。
・分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書く。
・80字以上100字以内で書く。

〈正答例〉
健康に過ごすためには、自分に合った運動をしたり、バランスのよい食事をとったりすることが大切だと分かりました。わたしは、これから、縄とびを続けて持久力を高めたり、苦手な野菜も食べたりしようと思います。（99字）

〈誤答例〉
好きなものばかり食べると、栄養がかたよってしまい、つかれやすくなるので、バランスよく食べることが大切だと分かりました。だから、わたしは、これからも、お米やお肉や野菜をバランスよく食べていきたいです。（99字）　…12.1%

誤答例の分析と課題

このように解答した児童は、運動に関する資料と食事に関する資料の両方に基づいて自分の考えをまとめるという条件があるにも関わらず、食事に関する資料の内容や考えのみ書いており、運動については言及していない。複数の情報を関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題があると考えられる。

指導改善のポイント

〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、児童が日常生活において考えをまとめる際に、**単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導すること**が大切である。

（２）中学校国語

◇…比較的できている点
◆…課題のある点

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視した。

結果概要

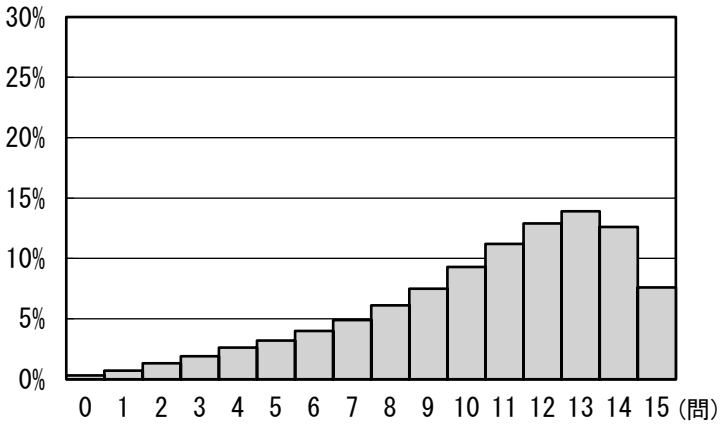
◇聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできている。
◆情報と情報との関係について理解することに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	2	67.9
		情報の扱い方に関する事項	2	63.8
		我が国の言語文化に関する事項	3	74.9
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	82.4
		書くこと	2	63.6
		読むこと	4	64.0
評価の観点		知識・技能	7	69.7
		思考・判断・表現	9	70.1
問題形式		選択式	7	73.4
		短答式	4	66.0
		記述式	4	68.4

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
10.5問/15問	70.1%	11.0問	3.4問	13問



（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

学習指導要領の内容別の主な特徴と指導改善のポイント

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇事象や行為、心情を表す語句について理解することはできている。（⇒大問２一）
◆文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。（⇒大問３二）

指導改善のポイント

漢字の書きについては、**字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導すること**が大切である。なお、**１人１台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるよう、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりすることができるように指導すること**も重要である。

情報の扱い方に関する事項

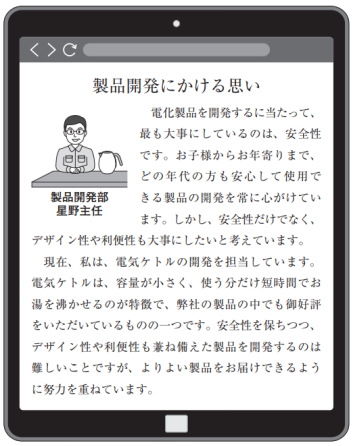
◆情報と情報との関係について理解することに課題がある。（⇒大問１二、大問３二）

具体的な設問例
（大問１二）

南さんが【インタビューの前に準備したメモ】の<インタビューを通して知りたいこと>に、下線部①のように知りたいことを書いたのは、【インターネットの記事】のどのような点に気付いたからか、最も適切なものを選ぶ。

正答率： 65.3 %

【インターネットの記事】



製品開発にかける思い

製品開発部
星野主任

電化製品を開発するに当たって、最も大事にしているのは、安全性です。お子様からお年寄りまで、どの年代の方も安心して使用できる製品の開発を常に心がけています。しかし、安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたいと考えています。

現在、私は、電気ケトルの開発を担当しています。電気ケトルは、容量が小さく、使う分だけ短時間でお湯を沸かせるのが特徴で、弊社の製品の中でも御好評をいただいているものの一つです。安全性を保ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しいことですが、よりよい製品をお届けできるように努力を重ねています。

【インタビューの前に準備したメモ】

<インタビューの目的>
星野さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考えの参考にする。

<インタビューを通して知りたいこと>
・「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」と考えるのはどうしてか。①
・「安全性を保ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。
・社会で働く上で何が大切だと思うか。

1　事例は示されているが、星野さんの考えとは内容が矛盾している点。　･･･2.7%

2　事例は示されているが、星野さんの考えが書かれていない点。　･･･22.1%

3　星野さんの考えは示されているが、その理由が書かれていない点。

4　星野さんの考えと理由は示されているが、理由として不十分である点。･･･ 9.7%

誤答例の分析と課題

「２」と解答した生徒は、【インターネットの記事】にある「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたいと考えています」という部分が、星野さんの考えを示した情報であることを捉えることができていないものと考えられる。

指導改善のポイント

「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるように指導することが大切である。

話すこと・聞くこと

◇目的や場面に応じて質問する内容を検討することや、聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできている。

具体的な設問例
（大問１四）

インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。

【インタビューの様子】

南　青空中学校の南と申します。先日、インターネットで、星野さんの記事を拝見しました。今日は、星野さんの製品開発に対する思いについて、詳しくお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

星野　こちらこそ、よろしくお願いします。

南　早速ですが、星野さんは、製品開発に当たり「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」とおっしゃっていましたが、そのように考えるのはどうしてですか。

星野　お客様の安全を守るための配慮をすることは当然なのですが、それだけでは不十分で、お客様のニーズに応じた多様なデザインや、年代を問わず手軽に使用できる利便性が求められるからです。お客様向けのアンケート調査などからも、そういった声が多く聞かれます。例えば、電気ケトルは何かのはずみで倒れる可能性があります。だからといって、倒れにくい形状にすることだけを考えると、デザイン性が損なわれてしまいます。私たちが開発している電気ケトルは、デザイン性に配慮しつつも、倒れたときに熱湯がこぼれにくい構造になっています。このように、安全性とデザイン性との両立を想定しながら開発しているのですね。

南　なるほど、いろいろなことを想定しながら開発しているのですね。

星野　そのとおりです。どの製品を開発するに当たっても、お客様のことを第一に考えています。製品を使用してくださるお客様の期待に応えるために、努力は惜しみません。

南　お客様のことを大切にする思いが分かりました。次の質問ですが、先ほど、電気ケトルの安全性とデザイン性との両立についてお話を伺いましたが、安全性と利便性との両立についても、具体的に教えてください。

星野　例えば、利便性という点では、手軽に使うことを重視する客様も多くいらっしゃるので、電気ケトルの軽量化にも努めています。しかし、軽くするために構造を簡素化すると、手に触れる部分に熱が伝わりやすくなってしまうなど、安全性が損なわれることがあります。毎日、こうした課題の解決に頭を悩ませています。

南　②課題を解決するために、星野さんはどのようにしてアイディアを生み出しているのですか。私は美術部に所属しているのですが、よいアイディアが浮かばず、作品の制作が滞ってしまうことがあるのです。

星野　よいアイディアはなかなか浮かばないものですよね。そういうとき、私は仲間と話し合うようにしています。年代や経験が異なるメンバーで話し合っていると、一人だけで考えていたときには思い付かなかったアイディアが生まれてきます。自分とは異なる考えや見方を生かすことは、学校でも職場でも大事なことではないでしょうか。

南　確かに、そうですね。他にも、働くに当たって大切にしていることはありますか。

星野　自分の専門分野以外にも目を向けることです。一つのことにとらわれすぎると、新たな発想は生まれません。様々な発見を大切にしながら働いています。

南　とても参考になりました。質問は以上です。ありがとうございました。

正答率： 82.7 %

〈条件〉
・条件１　【インタビューの様子】から、星野さんの話の内容を具体的に取り上げて書く。
・条件２　条件１で取り上げた内容を踏まえ、「社会で働く上で大切なこと」についてあなたが考えたことを書く。

〈正答例〉
星野さんのお話を伺い、自分とは異なる考えや見方を生かすことの大切さが分かりました。私も社会で働くときには、仲間と話し合うことを大切にしようと思いました。

◆話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することに課題がある。（⇒大問１三）

指導改善のポイント

話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるように指導することが大切である。

☞「令和５年度【中学校国語】報告書」 大問１ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_idea_01.pdf#page=10

書くこと

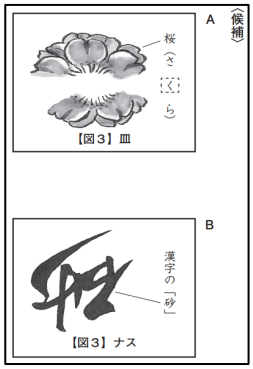
◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについては、改善の状況が見られる。

具体的な設問例（大問３四）

「判じ絵」についてまとめているレポートの「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に、具体例【図３】として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方の説明を書く。

正答率： 72.5 %

参考：令和４年度 大問２三 正答率：**46.5%**



〈正答例〉

・A:（【図３】は、）真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解読すると、食事で使う「皿」という意味になる。

・B:（【図３】は、）「砂」という漢字が逆さまに書かれているので、漢字の読み方も逆にすると、野菜の「ナス」という意味になる。

〈誤答例〉

・A:（【図３】は、） 真ん中が消えている桜が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、「皿」という意味になる。

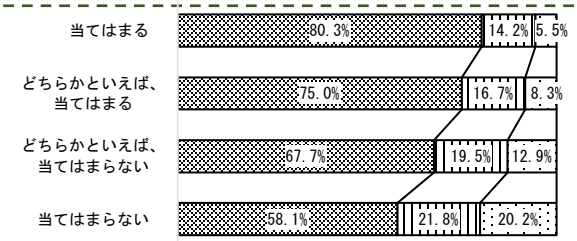
・B:（【図３】は、）「砂」という漢字が逆さに書かれているので、「ナス」という意味になる。

誤答例の分析と課題

このように解答した生徒は、書いた説明の中に、選んだ判じ絵をどのように読み解くのかを示すことができていない。判じ絵の解読の面白さがより明確に伝わるようにするためには、図に応じた解読の仕方を、根拠として文章の中に記述する必要があることを理解できていないものとも考えられる。

クロス集計

生徒質問紙における質問項目「国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか」の選択肢ごとの、本設問における生徒の解答状況（%）



この質問に肯定的に答えた生徒の方が、大問３ 四を正答している割合が高い。このことから、複数の事例の中からどの事例を自分の考えを支える根拠とするのかを検討したり、取り上げる根拠をどのように文章中に記述するかを吟味したりする学習活動を充実させることが重要であると考えられる。

◆読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることについては、改善の状況が見られるが、引き続き課題がある。（⇒大問３一）

指導改善のポイント

自分の考えが伝わる文章を書くためには、**自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認した上で、考えを支える根拠として示す事例等を検討し、考えと事例等との関係を明確にして記述できるように指導すること**が大切である。

☞「令和５年度【中学校国語】報告書」 大問３ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_idea_03.pdf#page=10

読むこと

◇文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することについては、改善の状況が見られる。（⇒大問２三）

◆文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。（⇒大問２四）

指導改善のポイント

文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章の内容を理解するだけでなく、自分がもっている知識や経験と結び付けることによって、理解したことや考えたことをより具体的で明確なものにしていくことが重要である。

☞「令和５年度【中学校国語】報告書」 大問２ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_idea_02.pdf#page=11

（３）小学校算数

◇…比較的できている点
◆…課題のある点

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。

結果概要

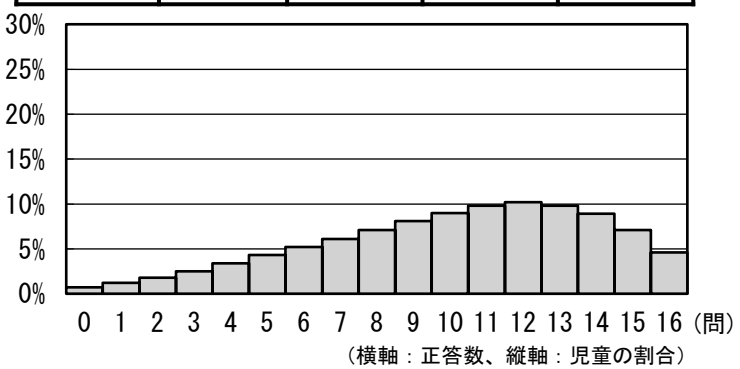
◇式を日常生活に関連付けて読み取ることはできている。
◆図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察することに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の領域	数と計算	6	67.5
	図形	4	48.4
	測定	0	―
	変化と関係	4	71.1
	データの活用	3	65.7
評価の観点	知識・技能	9	67.4
	思考・判断・表現	7	56.7
問題形式	選択式	5	57.9
	短答式	7	74.9
	記述式	4	47.6

〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
10.0問/16問	62.7%	11.0問	3.8問	12問



（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

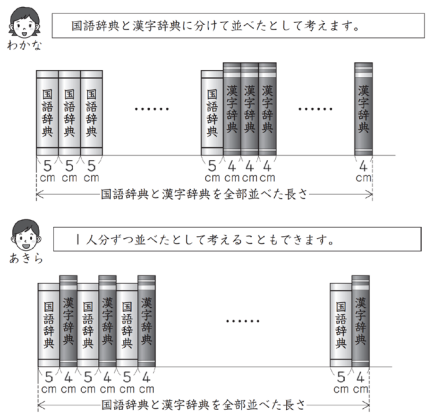
学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

数と計算

◇（　）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることはできている。

具体的な設問例（大問３(1)）

厚さ5cmの国語辞典と厚さ4cmの漢字辞典を、学級の人数(28人)分並べた長さを表す式が２つある。その式の中の波線部分が表しているものをそれぞれ１つずつ選ぶ。



【わかなさんの式】
$5 \times 28 + 4 \times 28$

【あきらさんの式】
$(5 + 4) \times 28$

ア　国語辞典 28 冊を並べた長さ
イ　漢字辞典 28 冊を並べた長さ
ウ　国語辞典１冊の厚さと漢字辞典１冊の厚さを合わせた長さ
エ　国語辞典 28 冊と漢字辞典 28 冊を並べた長さ

正答率：70.5％

〈正答〉
【 5×28 】　ア
【 5＋ 4】　ウ

◆示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することに課題がある。（⇒大問３(2)）

指導改善のポイント

日常生活の問題を解決するために、**場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明できるように指導すること**が重要である。

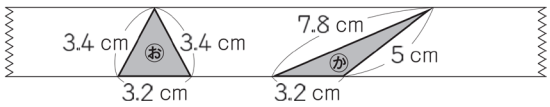
☞「令和５年度【小学校算数】報告書」 大問３ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23pmath_idea_03.pdf#page=19

図形

◇**正方形の意味や性質について理解することはできている。**（⇒大問２(2)）

◆**高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見いだし、その理由を記述することに課題がある。**

具体的な設問例（大問２(4)）　テープを直線で切ってつくった２つの三角形の面積の大小を判断し、その理由を説明する。



正答率：21.1％

1　㋐の面積のほうが大きい。
2　㋑の面積のほうが大きい。
3　㋐と㋑の面積は等しい。
4　㋐と㋑の面積は、このままでは比べることができない。

〈正答例〉【番号】　3
【わけ】　三角形の面積は、底辺×高さ÷２で求めることができます。㋐と㋑の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㋐と㋑の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㋐と㋑の面積は等しいです。

〈誤答例〉【番号】　4
【わけ】　高さが書かれていないので、このままでは面積を求めることができないから。　･･･16.8%

誤答例の分析と課題

このように解答した児童は、２つの三角形の高さが同じであるということに気付くことができていないか、具体的な数値が示されていないので比べることができないと判断したと考えられる。

指導改善のポイント

具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導することが重要である。

☞「令和５年度【小学校算数】報告書」 大問２ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23pmath_idea_02.pdf#page=21

変化と関係

◇**伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、示された表の中の適切な数の組を選ぶことはできている。**（⇒大問１(2)）

◆**伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述することに課題がある。**（⇒大問１(3)）

指導改善のポイント

伴って変わる二つの数量が、比例の関係にあることを用いて、**筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさの求め方を説明できるように指導すること**が重要である。

☞「令和５年度【小学校算数】報告書」 大問１ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23pmath_idea_01.pdf#page=14

データの活用

◇**「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはできている。**（⇒大問４(2)）

◆**示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述することに課題がある。**（⇒大問４(3)）

指導改善のポイント

複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、**グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導すること**が大切である。

☞「令和５年度【小学校算数】報告書」 大問４ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23pmath_idea_04.pdf#page=17

（４）中学校数学

◇…比較的できている点
◆…課題のある点

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。

結果概要

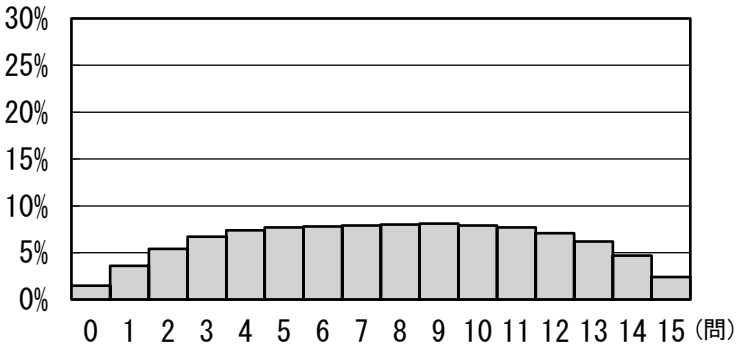
◇基礎的・基本的な計算技能は身に付いていると考えられる。
◆問題解決の過程や結果を振り返って考察することに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の領域	数と式	5	63.5
	図形	3	33.8
	関数	4	51.7
	データの活用	3	48.6
評価の観点	知識・技能	10	56.1
	思考・判断・表現	5	42.1
問題形式	選択式	4	45.8
	短答式	6	62.9
	記述式	5	42.1

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
7.7問/15問	51.4%	8.0問	3.9問	9問



（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

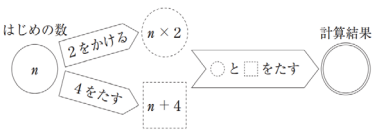
数と式

◇数と整式の乗法の計算をすることはできている。（⇒大問２）
◆結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見いだし、説明することに課題がある。

具体的な設問例（大問６(3)）　夏希さんの計算をもとに考え、はじめの数に何をかけて何をたせば、計算結果がいつでも４の倍数になるのかを予想する。

正答率：41.5％

図３



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数をnとすると、はじめの数に２をかけた数は$n\times2$、４をたした数は$n+4$と表される。
計算結果は、
$n\times2+(n+4)$
$=2n+n+4$
$=3n+4$

〈正答例〉
はじめの数にかける数が３、たす数が４ならば、計算結果はいつでも４の倍数になる。

〈誤答例〉
・はじめの数にかける数が３、たす数が１ならば、計算結果はいつでも４の倍数になる。
・はじめの数にかける数が１、たす数が４ならば、計算結果はいつでも４の倍数になる。
・・・19.7%

誤答例の分析と課題

はじめの数にかける数とたす数を考えたが、計算結果が４の倍数になるような数を、夏希さんの計算の過程から考察し見いだすことができなかったと考えられる。

指導改善のポイント

<u>事柄が成り立つことの説明を振り返り、新たに成り立ちそうな事柄を予想する活動を取り入れること</u>が大切である。

☞「令和５年度【中学校数学】報告書」 大問６ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mmath_idea_06.pdf#page=11

図形

◆**空間における平面が同一線上にない３点で決定されることの理解に課題がある。**（⇒大問３）

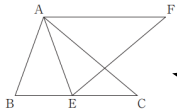
◆**条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がある。**

具体的な設問例
（大問９(2)）

「合同な２つの二等辺三角形」という条件を、合同であることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えた場合に、もとの証明のどの部分が成り立たなくなるのかを考える。

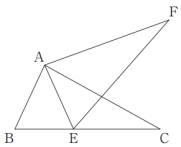
正答率： 37.6 %

図７



△ABCと△AEFは合同な二等辺三角形。

図８



△ABC≡△AEFであることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えた。

BC // AF であることは、次のように証明できます。

証明１

△ABC ≡ △AEF より、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、
AB = AE ……①
∠ABC = ∠AEF ……②
△AEF において、二等辺三角形の底角は等しいから、
∠EAF = ∠AEF ……③
②、③より、
∠ABC = ∠EAF ……④
また、①より、△ABE は二等辺三角形である。
二等辺三角形の底角は等しいから、
∠ABE = ∠AEB ……⑤
∠ABE = ∠ABC だから、④、⑤より、
∠EAF = ∠AEB
よって、錯角が等しいから、
BC // AF

優奈さんは、**図８**でBC // AFとならないのは、前ページの**証明１**の①から⑤のどれかが成り立たないからだと考えました。
図８のような二等辺三角形ではない合同な２つの三角形の場合には、∠EAF = ∠AEBとならないため、BC // AFとなりません。このことは、**証明１**をもとに、次のように説明することができます。

二等辺三角形ではない合同な２つの三角形の場合には、**証明１**の［Ⅰ］が成り立たないから、［Ⅱ］が成り立たない。よって、∠EAF = ∠AEBとならないから、BC // AFとならない。

上の［Ⅰ］には**証明１**の①、②、③のどれか１つが、［Ⅱ］には**証明１**の④、⑤のどちらか１つが当てはまります。［Ⅰ］、［Ⅱ］に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。

〈正答〉
Ⅰに③と解答し、
Ⅱに④と解答しているもの。

〈誤答例〉
Ⅰに③と解答し、
Ⅱに⑤と解答しているもの。
・・・15.5%

誤答例の分析と課題

条件が「二等辺三角形ではない合同な２つの三角形」に変わったことから、証明１に書かれている「二等辺三角形の底角は等しいから」を根拠としている③と⑤が成り立たなくなったと捉えたと考えられる。また、条件を変えても、△ABE が AB＝AE の二等辺三角形であることは変わらないということに気付くことができなかったとも考えられる。

指導改善のポイント

ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるようにすることが大切である。

関数

◆**事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することに引き続き課題がある。**（⇒大問８(2)）

◆**事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。**（⇒大問８(3)）

指導改善のポイント

数学を活用して様々な問題を解決できるようにするために、**表、式、グラフのどれをどのように用いたかについて数学的に説明できる活動を充実すること**が大切である。

☞「令和５年度【中学校数学】報告書」 大問８ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mmath_idea_08.pdf#page=8

データの活用

◆複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

具体的な設問例（大問７(2)）

「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張できる理由を、２つの箱ひげ図の箱に着目して説明する。

正答率： 33.9 %

7 イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日（おうようび）といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのかが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を９月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月１日が１日となり、10月31日は31日、11月１日は32日となります。

そして、二人は次のような表にまとめました。

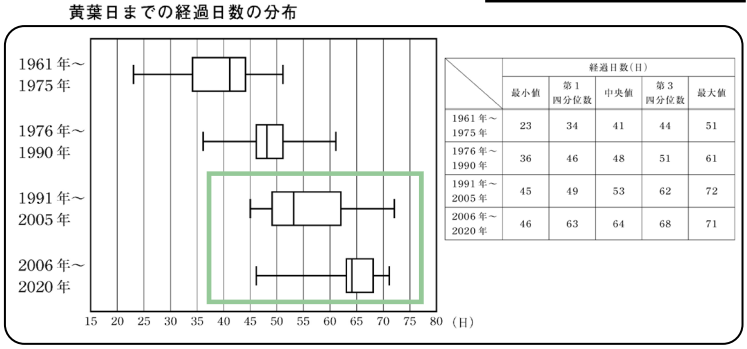
各年の黄葉日

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
⋮	⋮	⋮
2019	12月10日	71
2020	12月 4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの**黄葉日までの経過日数の分布**は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の４つに分けてまとめたものです。

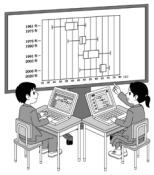
黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日) 最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

次の(１)、(２)の各問いに答えなさい。

(２) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。



一花さん「４つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」
啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」
一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の２つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

〈正答例〉
1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも、2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

〈誤答例〉
1991年～2005年の最小値よりも、2006年～2020年の最小値の方が大きいから。　･･･14.3%

誤答例の分析と課題

箱ひげ図の箱に着目せず、最小値に着目して黄葉日が遅いことを説明しようとしていたと考えられる。また、箱に着目することで、箱の位置や四分位数の違いに気付き、そのことが黄葉日が遅くなっている根拠になると捉えることができなかったとも考えられる。

指導改善のポイント

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて的確に説明できるようにすることが大切である。

☞「令和５年度【中学校数学】報告書」 大問７ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mmath_idea_07.pdf#page=7

（５）中学校英語

◇…比較的できている点
◆…課題のある点

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「知識及び技能」を測ることに加え、それらをコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて活用できる「思考力、判断力、表現力等」を測ることを重視した。

「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」について

結果概要

◇日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることはできている。

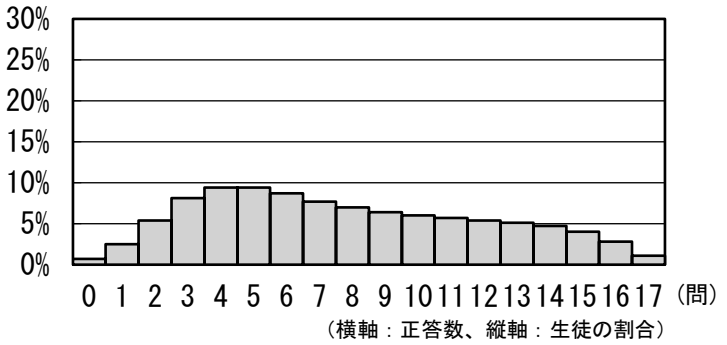
◆日常的な話題に関する文章の概要を捉えたり、社会的な話題について自分の考えや理由を表現したりすることに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の領域	聞くこと	6	58.9
	読むこと	6	51.7
	話すこと［やり取り］	0	—
	話すこと［発表］	0	—
	書くこと	5	24.1
評価の観点	知識・技能	9	52.1
	思考・判断・表現	8	39.4
問題形式	選択式	12	55.3
	短答式	3	30.9
	記述式	2	13.9

〈中学校英語の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
7.8問/17問	46.1%	7.0問	4.2問	4問



（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

聞くこと

◇日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ることはできている。

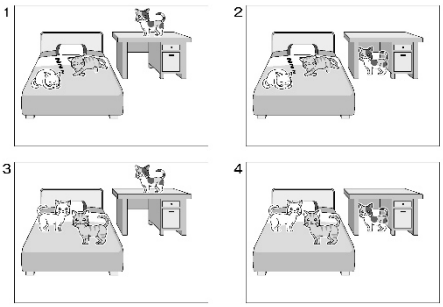
具体的な設問例（大問１(1)）　話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選ぶ。

正答率：79.3％

<スクリプト>

Look at this picture. There are three cats. You can see a cat under the desk. And the other cats are on the bed. They are sleeping.

1　…19.3%　2　○　3　…0.7%　4　…0.5%



◆自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題がある。（⇒大問３）

指導改善のポイント

自分の置かれた状況を把握し何を聞き取るか理解した上で、それらに関連する語句や表現に着目して必要な情報を聞き取ることができるように指導することが重要である。

☞「令和５年度【中学校英語】報告書」 大問３ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23meng_idea_03.pdf#page=3

読むこと

◇日常的な話題について、文と文との関係を正確に読み取ることはできている。　（⇒大問７(１)）
◇日常的な話題について、事実と考えを区別して読むことはできている。

具体的な設問例（大問５(2)）　英文を読み、書き手の考えが書かれている英文を選ぶ。

正答率： 65.0 %

There is a mountain in our city. (1) It is 815 meters high. I went there this summer with my family. (2) I saw a lot of garbage. I was surprised to see it. We cleaned the place for about 30 minutes. (3) Everyone should bring their garbage back home. (4)

1　…3.8%　　2　…13.8%　　3　…17.2%　　**4　○**

書かれている内容や、考えを伝える助動詞shouldに着目して、事実と考えを区別して読むことができたと考えられる。

◆日常的な話題に関する文章の概要を捉えることに課題がある。

具体的な設問例（大問７(2)）　町の図書館について書かれた英文を読み、概要として最も適切なものを選ぶ。

Libraries today are more creative than in the past. The library in our town is more creative, too. We can do a lot of things there. We not only read books and watch DVDs at the library, but also enjoy events like book talks, puppet shows, and workshops about making picture books.

There are many kinds of spaces, too. (　　), people can read books on sofas, on *tatami* mats or in the library cafeteria. They can relax and read books anywhere. They can use small rooms for studying, meeting, or working.

Our creative library can connect people. One of my friends likes making picture books now after he joined a workshop at the library. He sometimes asks the library staff questions about making picture books by email even now. Also, while some kids are reading together on the *tatami* mats, their parents can become friends with each other.

I hope all of you visit our creative library in the near future.

正答率： 35.2 %

1　The library in the town is more creative than before. We can do a lot of things there. There are many kinds of spaces, too. The library can connect people.

2　There are many kinds of spaces in the library. People can relax and read books anywhere. The library can connect people. We can ask the library staff questions.　…25.2%

3　The library in the town is more creative than before. There are many kinds of spaces. In small rooms, people can study or work very hard. The library can connect people.　…24.2%

4　The library in the town can connect people. We can ask the library staff questions. Parents can become friends with each other while the kids are reading together.　…14.6%

誤答例の分析と課題

情報の不足や偏り、内容の具体性のバランスなどを踏まえ、英文全体の主題と各段落の主な内容が過不足なく含まれているかを判断することに課題があると考えられる。

指導改善のポイント

「概要を捉える」とは、物語や説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることのおおまかな内容を捉えることである。指導に当たっては、説明文を読んで、概要を捉えるためには、**段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えること**ができるようにすることが大切である。

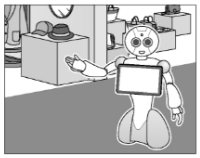
☞「令和５年度【中学校英語】報告書」 大問７ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23meng_idea_07.pdf#page=5

書くこと

◆社会的な話題について、自分の考えやその理由などを書くことに課題がある。

具体的な設問例（大問８(2)）　ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えと理由を英語で書く。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



正答率： 20.1%

無解答率： 28.9%

〈正答例〉
- I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.
- I don't agree with you because people will lose their job.

〈誤答例〉
- Yes, I do. I think robots is very nice.
- No, I don't. I don't like robots.　　･･･27.8%

誤答例の分析と課題

このように解答した生徒は、**自分の意見を書く際に、なぜそのように考えたのかという理由を、英文の書き手の意見を踏まえて書くことに課題**があると考えられる。どのようなことを書けば理由になるのか理解できていない、あるいは、理由を書くために必要な表現が身に付いていないことが考えられる。

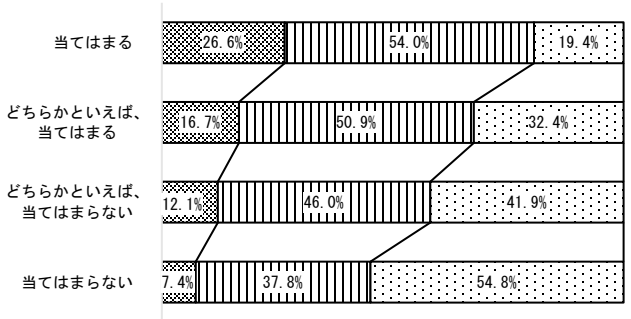
また、自分の考えやその理由を書くことはできているが、文法事項等の誤りがある解答が7.6%である。このような解答をした生徒は、**基本的な語や文法事項等を理解して文章を書くことに課題**があると考えられる。

指導改善のポイント

読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切に表現することが重要である。指導に当たっては、**読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うこと**が大切である。その際、なぜそのように考えたのかという理由を考えさせたり、生徒の発話に対して教師が理由を尋ねたりするといった取組が効果的である。

クロス集計

生徒質問紙における質問項目「１、２年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」の選択肢ごとの、本設問における生徒の解答状況（%）



この質問に肯定的に答えた生徒の方が、大問８(2)を正答している割合が高く、無解答率も低い。このことから、**自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れること**が重要だと考えられる。

「話すこと」について※

結果概要

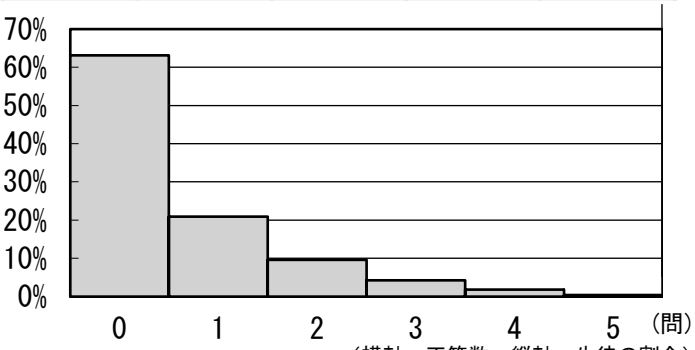
※「話すこと」の正答率等は、すべて推計値。
推計値とは、当日実施校の調査結果（499校、41,966人）に統計的補正をかけ、全国値として推定したもの。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の領域	聞くこと	0	—
	読むこと	0	—
	話すこと［やり取り］	4	14.5
	話すこと［発表］	1	4.2
	書くこと	0	—
評価の観点	知識・技能	3	13.9
	思考・判断・表現	2	10.1
問題形式	選択式	0	—
	短答式／口述式	3	13.9
	記述式／口述式	2	10.1

〈中学校英語の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
0.6問/5問	12.4%	0.0問	1.0問	0問



（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

◆社会的な話題について聞き、自分の考えとその理由を話すことに課題がある。

具体的な設問例（話すこと大問2）
環境問題についての英語のプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を話す。

正答率： 4.2%　**無解答率： 18.8%**

〈正答例〉
・I like your idea. Many people in Japan use plastic bags. We must change our action to protect environment like people in New Zealand.

〈誤答例〉
・I'm surprised.　・We are buy eco bags.　･･･50.0%

誤答例の分析と課題

このように解答した生徒は、プレゼンテーションへの感想のみを話しており、**話し手の意見を踏まえた上で、自分の考えやその理由を聞き手に話して伝えることに課題**があると考えられる。
その背景には、自分の考えやその理由を整理できなかったり、自分の考えとその理由を話すために必要な表現が身に付いていなかったりすることがあると思われる。

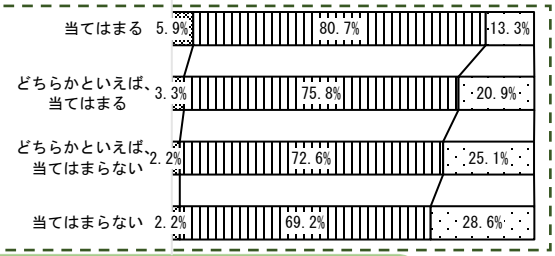
＜参考＞
・「（英語「話すこと」調査で）聞いたことを理解したが、話す内容が思い浮かばなかった」と回答した生徒　…35.8%
・「（英語「話すこと」調査で）聞いたことを理解し、話す内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと回答した生徒　…41.1%

指導改善のポイント

社会的な話題に関して聞いて分かった情報を整理し、既習の表現などを活用しながら、自分自身の考えや気持ちを理由などとともに話して伝えることができるように指導することが大切である。

クロス集計

生徒質問紙における質問項目「１、２年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」の選択肢ごとの、本設問における生徒の解答状況（%）



この質問に肯定的に答えた生徒の方が、話すこと大問２を正答している割合が高く、無解答率も低い。このことから、**スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を継続的・計画的に取り入れること**が重要だと考えられる。

☞令和５年度【中学校英語】報告書 大問２ 授業アイディア例参照
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23meng_idea_12.pdf#page=6

3．質問紙調査結果（児童生徒、学校）

※ [　] 内の数字は相関係数

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

分析結果のポイント

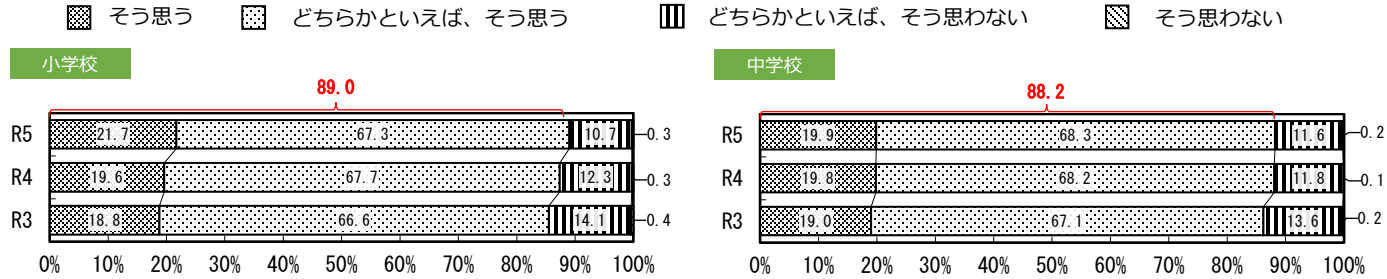
○昨年度までと同様、各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が実施されている。また、主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

○昨年度までと同様、個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する取組が実施されている。

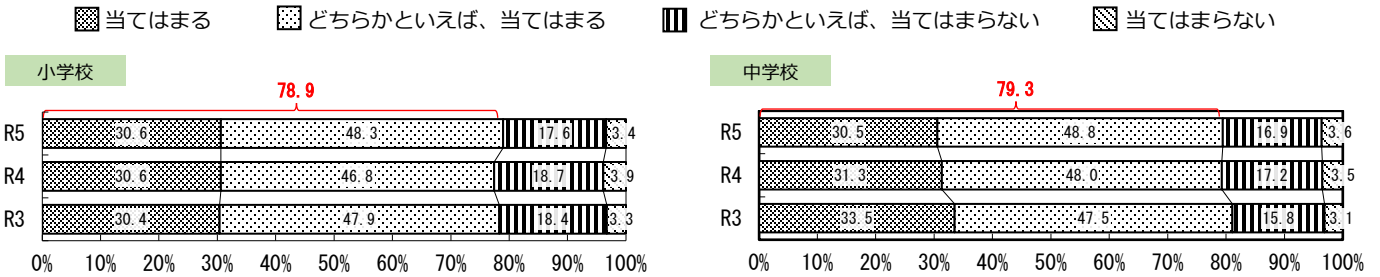
○授業の中で、主体的・対話的で深い学びに取り組んだ児童生徒は、家庭の社会経済的背景（SES）が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

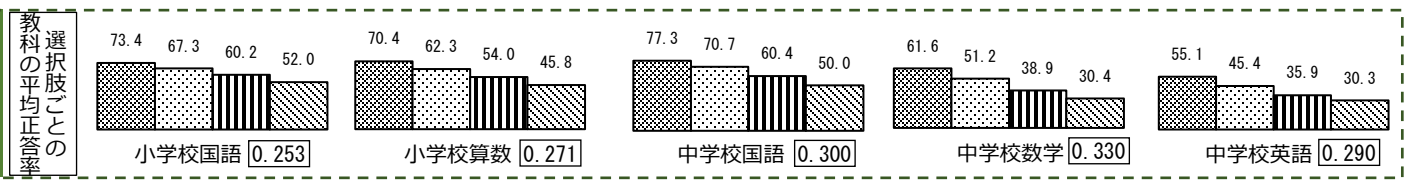
【学校】 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



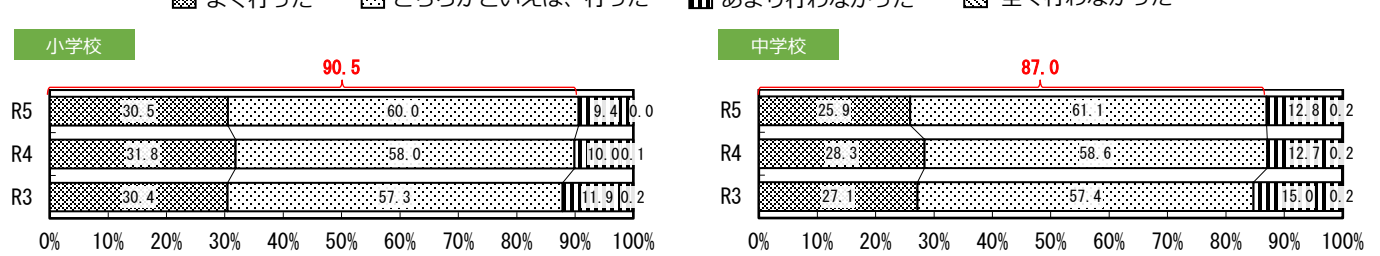
【児童生徒】 ５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



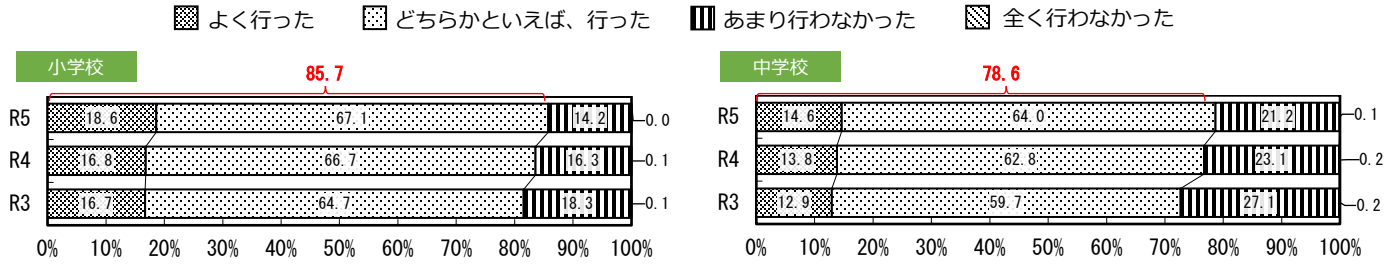
クロス集計



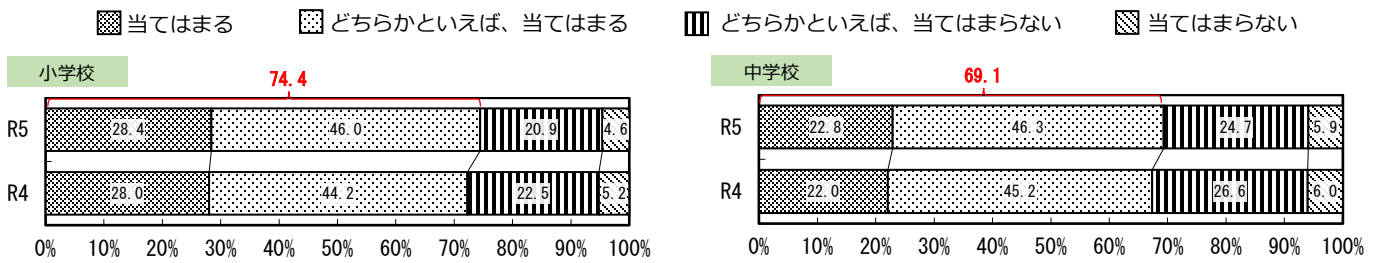
【学校】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。



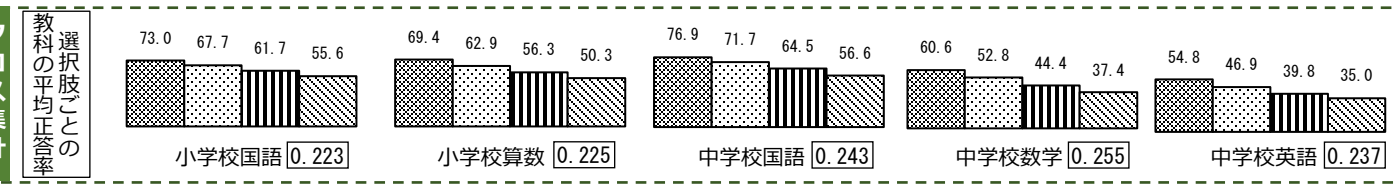
【学校】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。



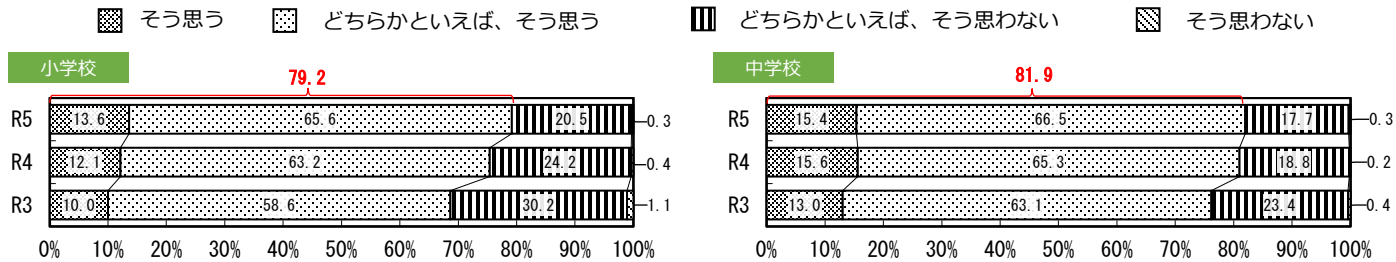
【児童生徒】 ５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



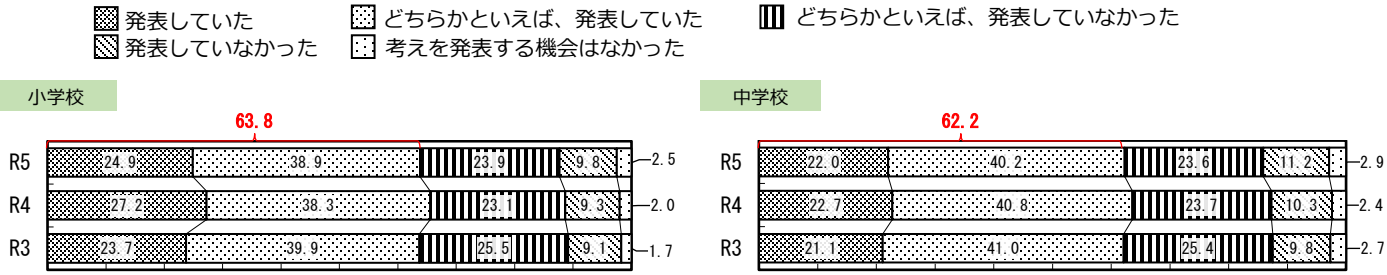
クロス集計 選択肢ごとの教科の平均正答率



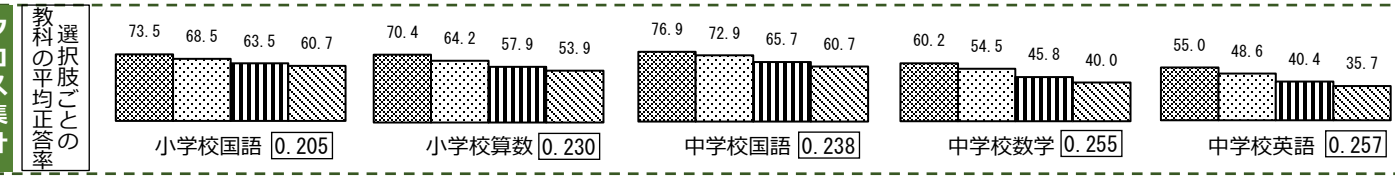
【学校】 調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。



【児童生徒】 ５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



クロス集計 選択肢ごとの教科の平均正答率



「社会経済的背景(SES)」「主体的・対話的で深い学び」「平均正答率」の関係

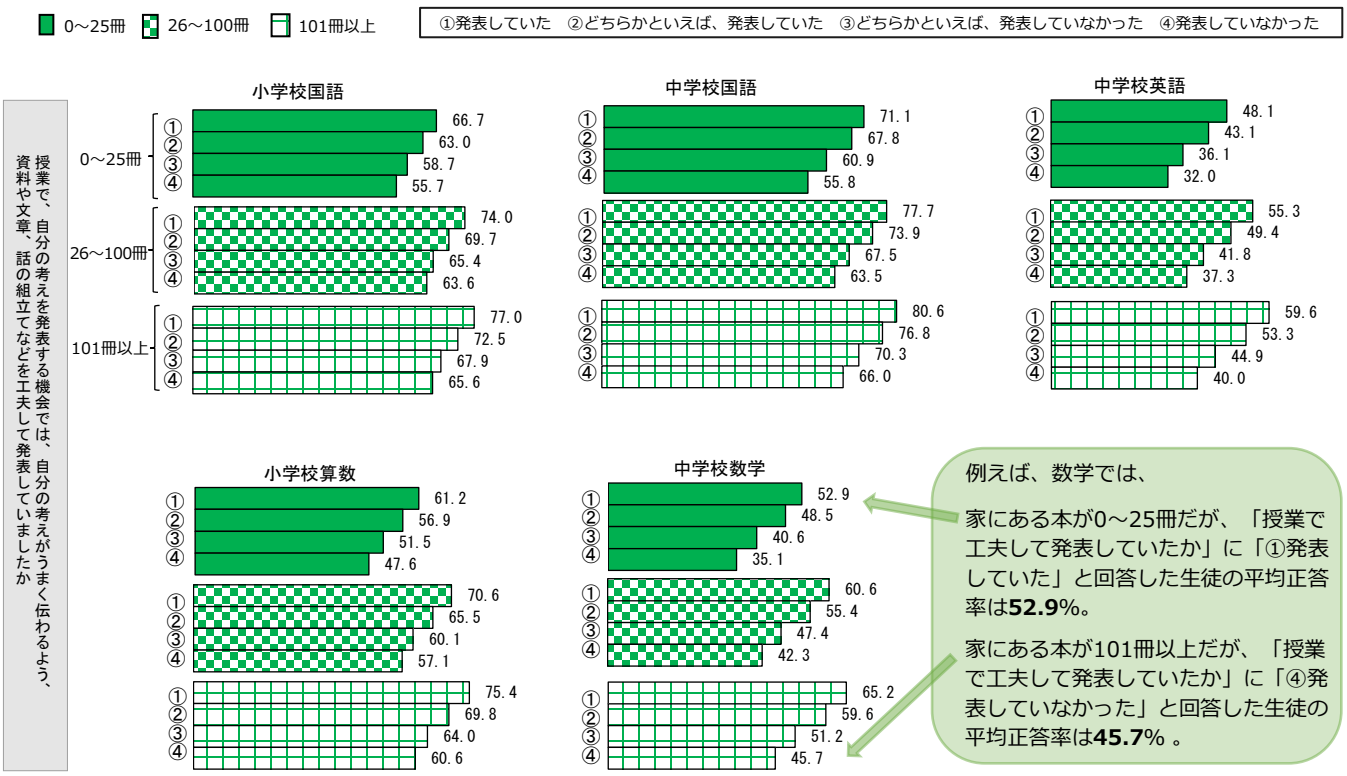
○家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低い児童生徒ほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる。

○しかし、**「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。**

* 本資料では、国際学力調査も参考に、「家にある本の冊数」を家庭のSESの代替指標として用いている。

三重クロス集計

［家にある本の冊数］×［授業で工夫して発表していたか］×［各教科の平均正答率］



例えば、数学では、

家にある本が0～25冊だが、「授業で工夫して発表していたか」に「①発表していた」と回答した生徒の平均正答率は**52.9%**。

家にある本が101冊以上だが、「授業で工夫して発表していたか」に「④発表していなかった」と回答した生徒の平均正答率は**45.7%** 。

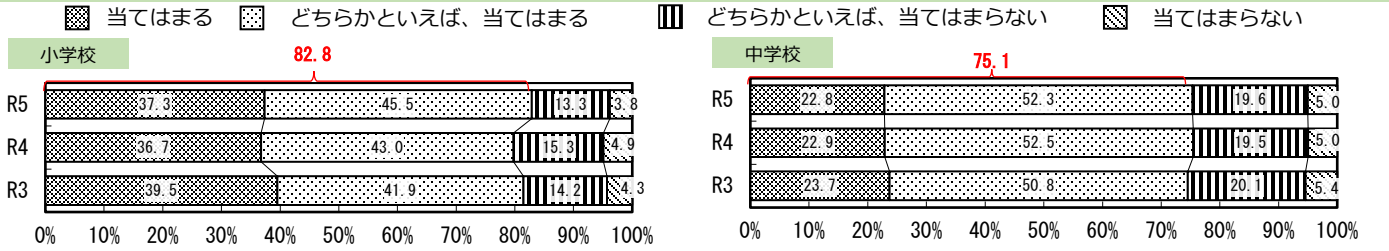
（※）他の「主体的・対話的で深い学び」に関する設問においても同様の傾向が見られる。

（参考）SESと平均正答率との関係等については、令和4年度文部科学省委託研究（受託者：福岡教育大学、お茶の水女子大学）においても詳細に分析を行っている。

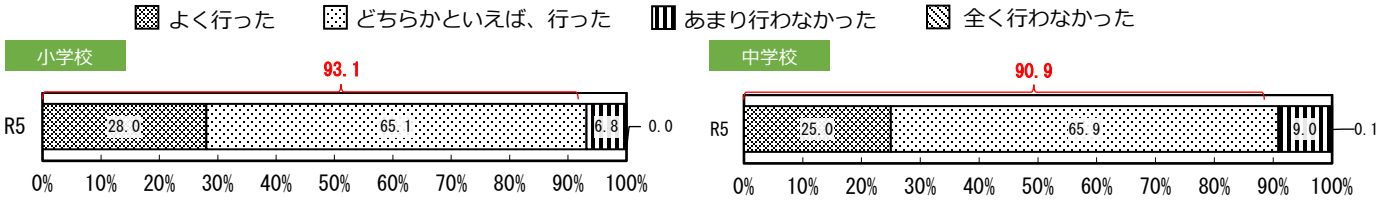
☞ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00008.html

② 個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する状況

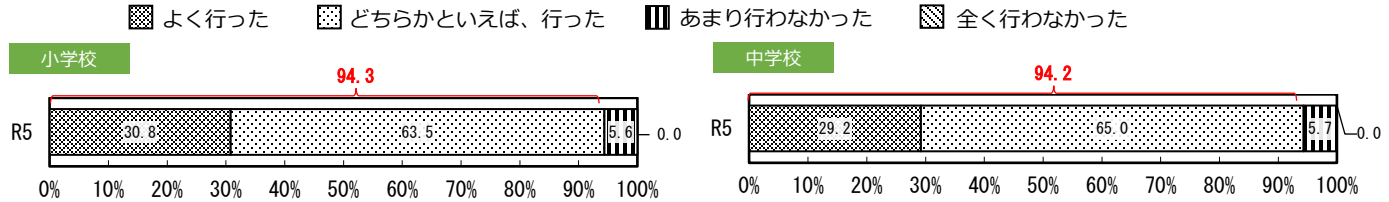
【児童生徒】 ５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



【学校】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。　（新規）

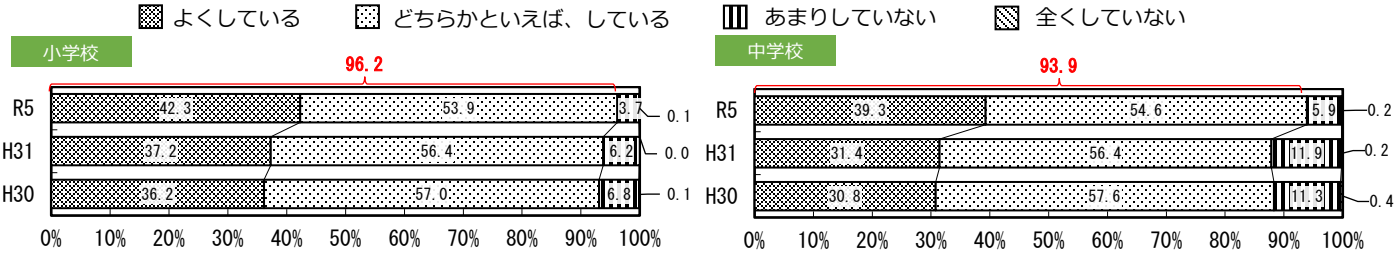


【学校】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。　（新規）

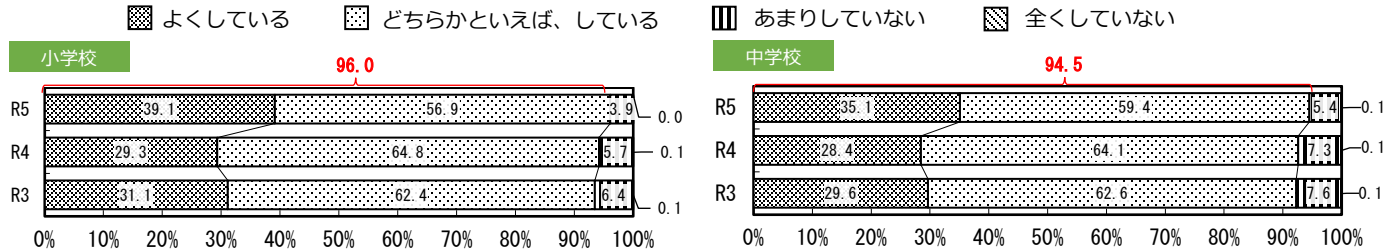


③ カリキュラム・マネジメントに関する取組状況

【学校】 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。



【学校】 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



(2) 英語の学習状況

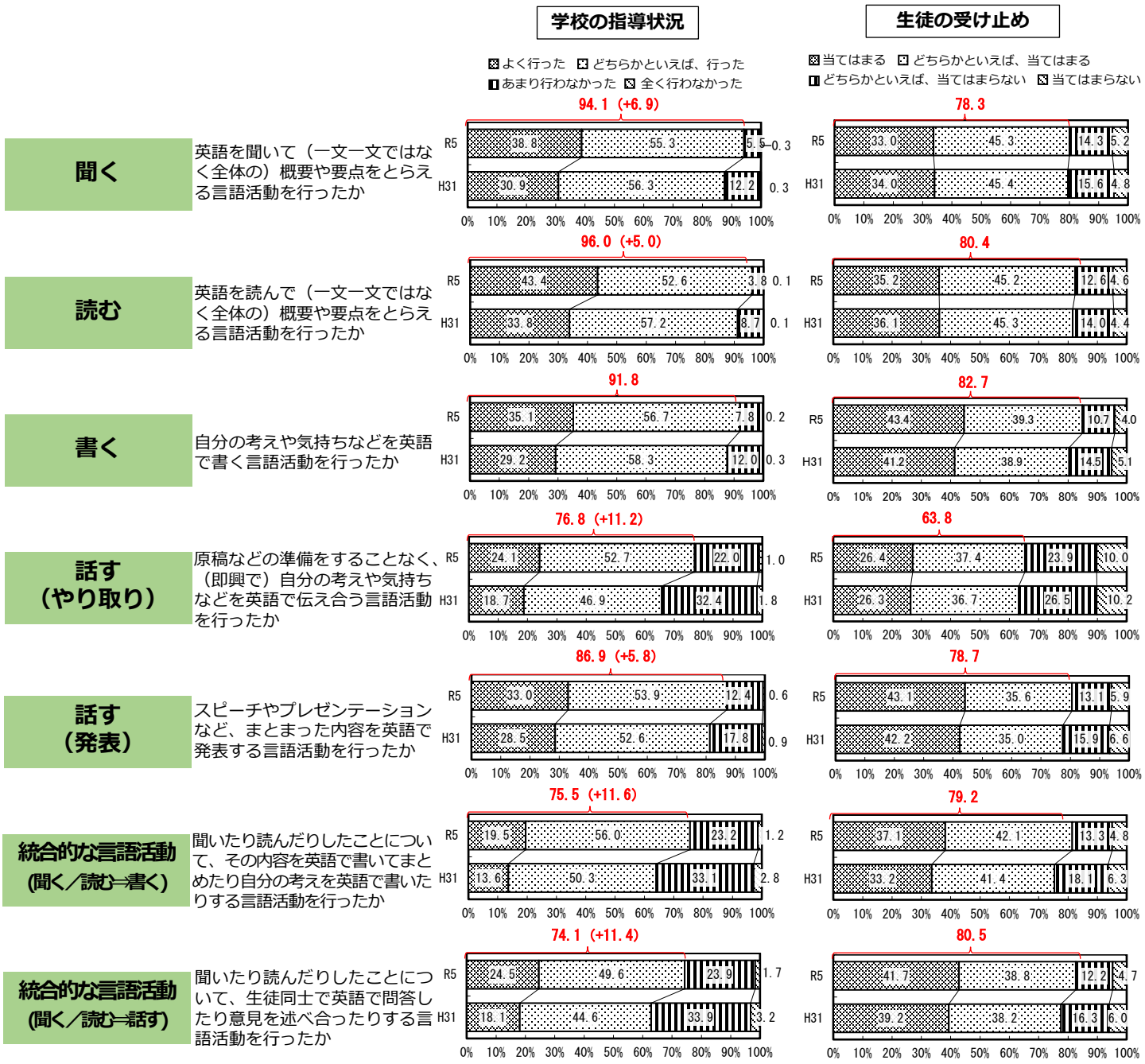
① 学校における言語活動等の取組状況

外国語科における言語活動とは、<u>実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う</u>などの活動を意味する。

分析結果のポイント

○学校の言語活動（領域別）の指導状況について、肯定的に回答した学校の割合は前回よりも増加しており、特に「話す（やり取り）」や「統合的な言語活動」に取り組んでいると肯定的に回答した学校の割合は、11ポイント以上増加している。

○授業において言語活動に取り組んでいると受け止めている中学校生徒の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られる。

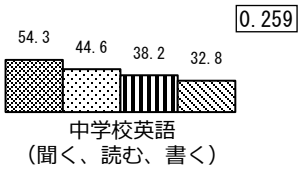


クロス集計

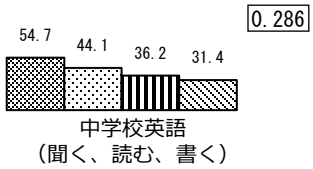
選択肢ごとの英語の平均正答率

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

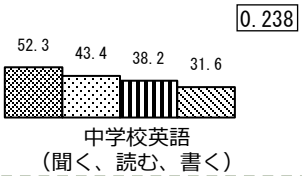
<聞く>【生徒】英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



<読む>【生徒】英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



<書く>【生徒】自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか。



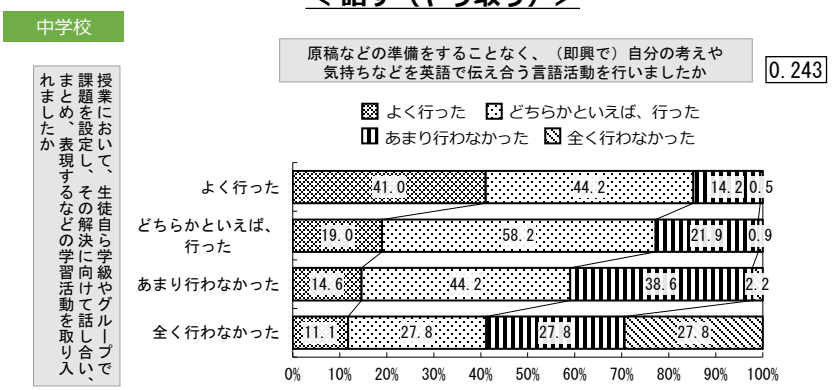
「話すこと」の言語活動と「主体的・対話的で深い学び」との関係

○今回の調査結果からは、授業で「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組んでいる中学校ほど、英語「話すこと（やり取り・発表）」の言語活動にも取り組んでいる傾向が見られる。

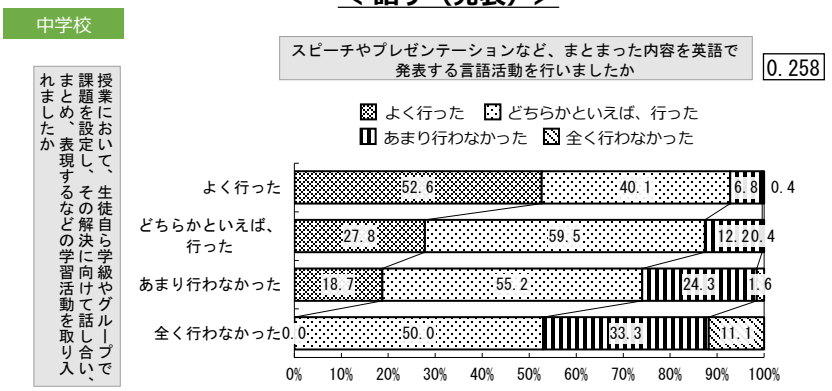
クロス集計

［主体的・対話的で深い学び］×［「話すこと」の言語活動］

＜話す（やり取り）＞



＜話す（発表）＞



（※）他の「主体的・対話的で深い学び」に関する設問においても同様の傾向が見られる。

○この傾向からは、**学校全体として各教科等を通じた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、生徒に話合いや発表といった学習活動に取り組ませることが、英語の「話すこと」の言語活動の実施にも良い影響を与えている**ことが示唆されていると言える。

「社会経済的背景(SES)」「言語活動」「英語の平均正答率」の関係

○家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低い生徒ほど、英語の正答率が低い傾向が見られる。

○しかし、**言語活動に取り組んだ生徒は、SESが低い状況にあっても、英語の正答率が高い傾向が見られる。**

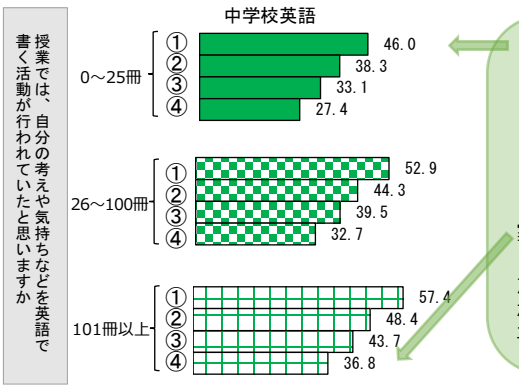
＊本資料では、国際学力調査も参考に、「家にある本の冊数」を家庭のSESの代替指標として用いている。

三重クロス集計

■ 0～25冊　▩ 26～100冊　⊞ 101冊以上

①当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない

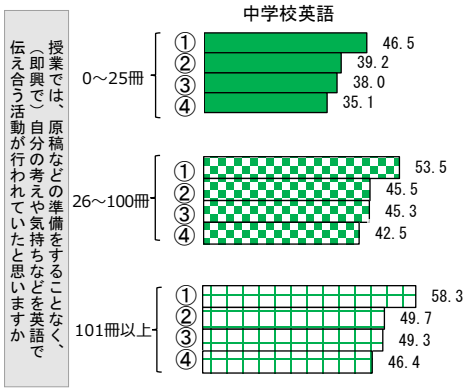
［家にある本の冊数］
×［英語で書く活動が行われていたと思うか］
×［英語の平均正答率］



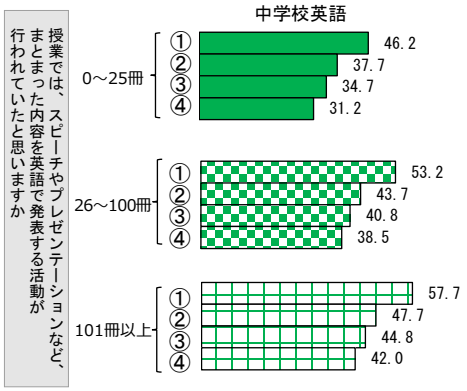
家にある本が0～25冊だが、「英語で書く活動が行われていたと思うか」に「①当てはまる」と回答した生徒の英語の平均正答率は**46.0**%。

家にある本が101冊以上だが、「英語で書く活動が行われていたと思うか」に「④当てはまらない」と回答した生徒の英語の平均正答率は**36.8**%。

［家にある本の冊数］
×［英語で伝え合う活動が行われていたと思うか］
×［英語の平均正答率］



［家にある本の冊数］
×［英語で発表する活動が行われていたと思うか］
×［英語の平均正答率］



（※）「聞くこと」「読むこと」の言語活動に関する設問においても同様の傾向が見られる。

② 英語学習に対する興味・関心や授業の理解度等

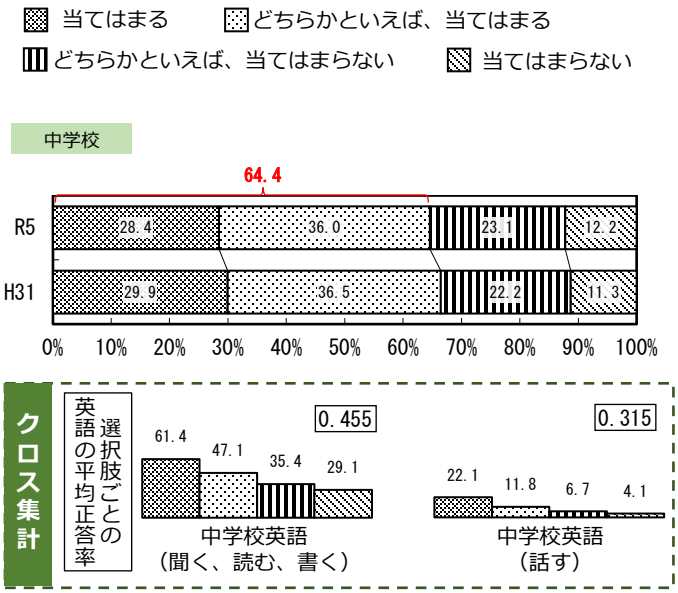
分析結果のポイント

○「英語の勉強は好きか」との問に肯定的に回答する中学校生徒の割合は、小学校児童よりも約17ポイント少ない。

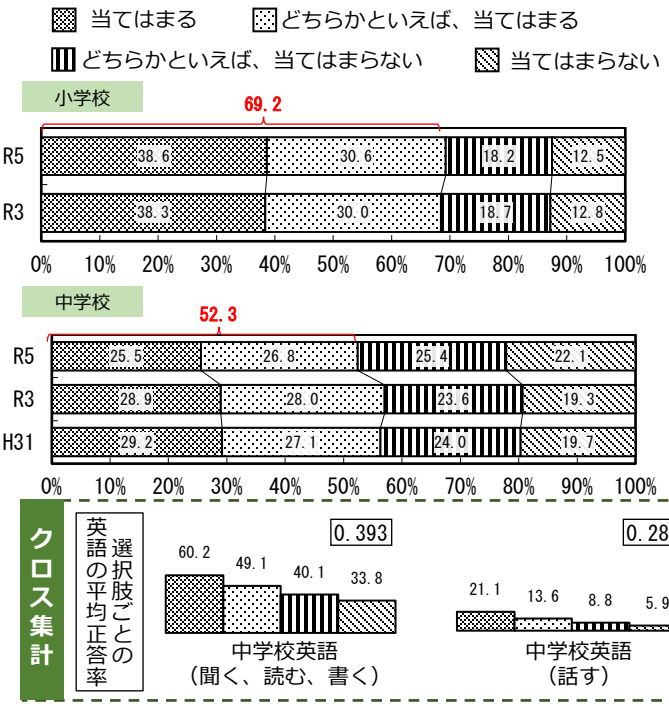
○「英語の授業の内容はよく分かる」「英語の勉強は好き」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」と回答した中学校生徒の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られる。

○言語活動に取り組んでいたと受け止めている中学校生徒ほど、「英語の授業の内容はよく分かる」「英語の勉強は好き」と回答している傾向が見られる。

【生徒(中のみ)】英語の授業の内容はよく分かりますか。

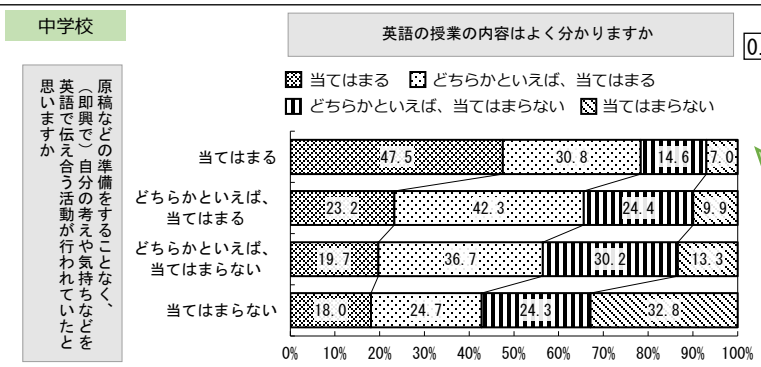


【児童生徒】英語の勉強は好きですか。



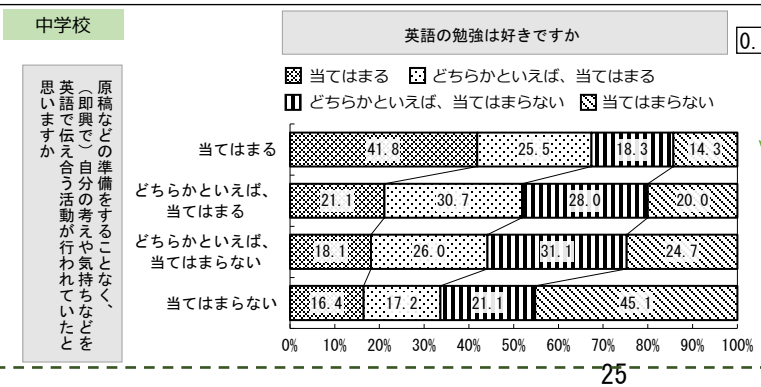
クロス集計

［「話すこと（やり取り）」の言語活動］×［英語の授業の内容はよく分かる］



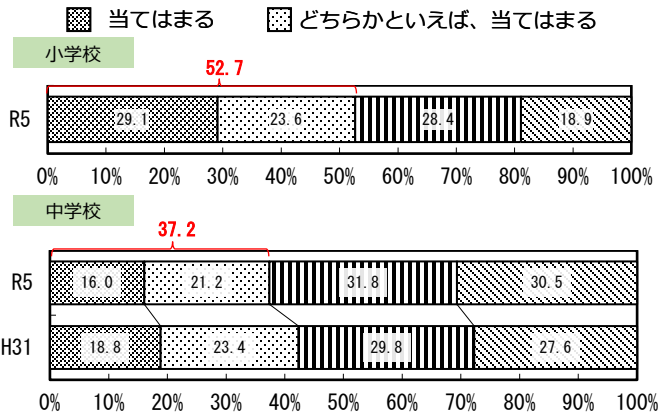
「英語の授業の内容はよく分かるか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全体で見ると**28.4**%だが、
「英語で伝え合う活動が行われていたと思うか」に「当てはまる」と回答した生徒のうち、「英語の授業の内容はよく分かるか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は**47.5**%。

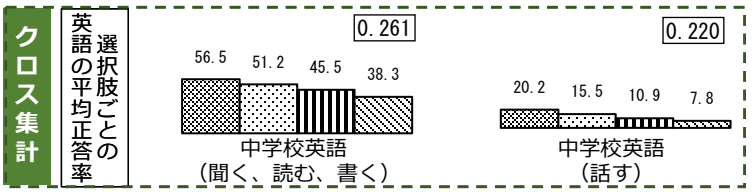
［「話すこと（やり取り）」の言語活動］×［英語の勉強は好き］



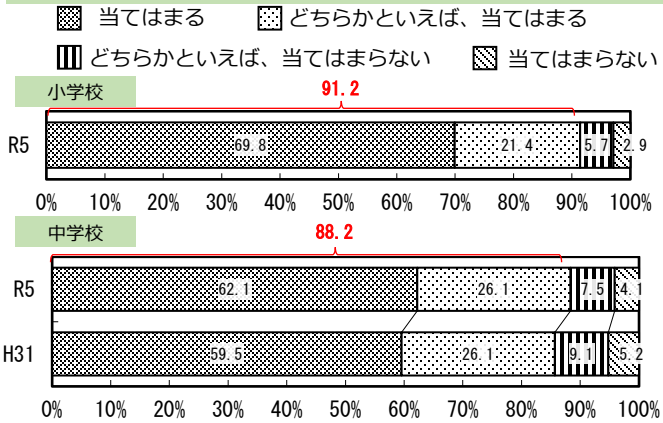
「英語の勉強は好きか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全体で見ると**25.5**%だが、
「英語で伝え合う活動が行われていたと思うか」に「当てはまる」と回答した生徒のうち、「英語の勉強は好きか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は**41.8**%。

【児童生徒】将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。

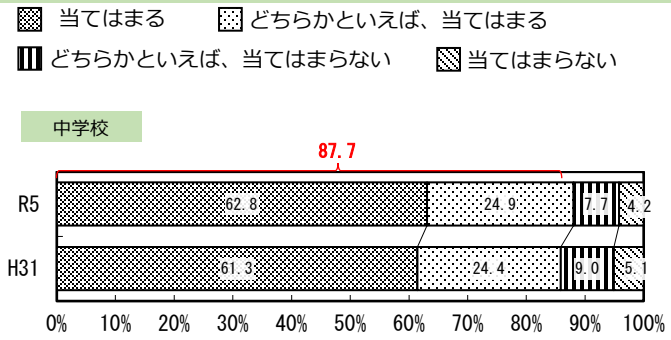




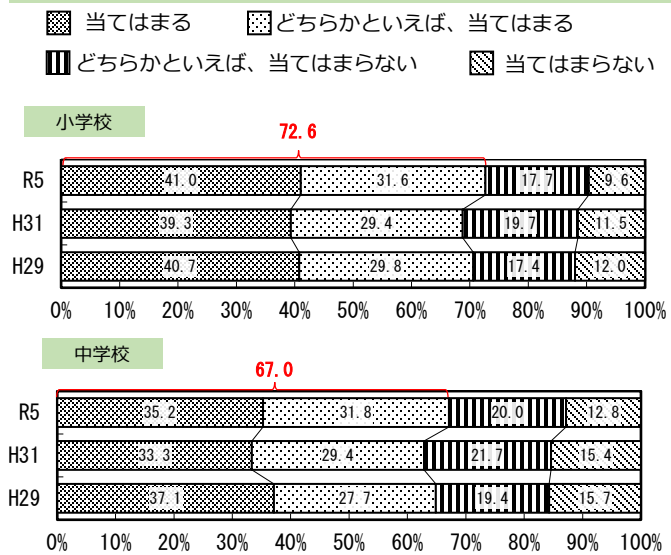
【児童生徒】英語の勉強は大切だと思いますか。



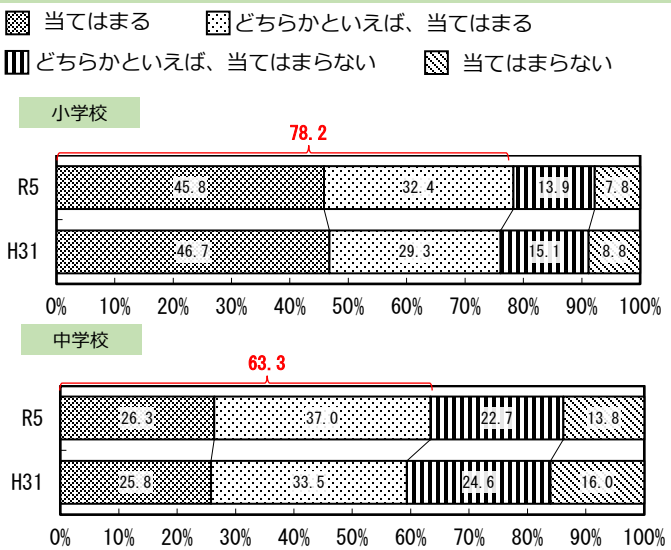
【生徒(中のみ)】英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



【児童生徒】外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。



【児童生徒】日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。

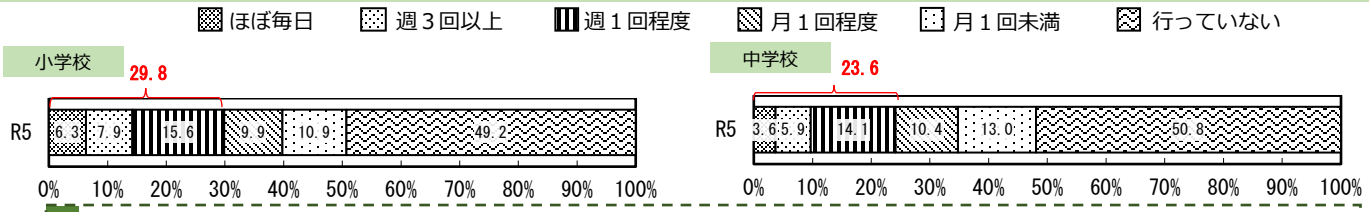


③ 授業外における英語学習の取組

分析結果のポイント

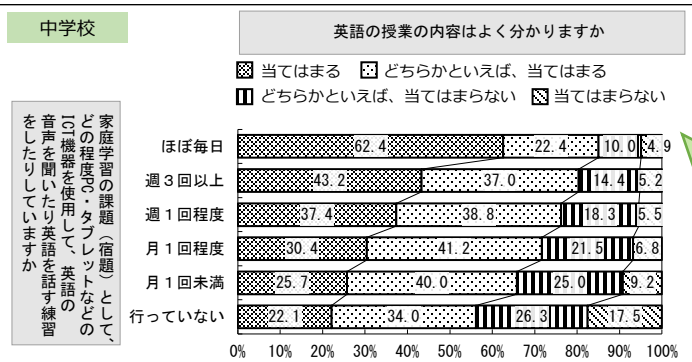
○家庭学習においてICT機器を活用して英語の学習に取り組んでいる頻度が高い中学校生徒の方が、「英語の授業の内容はよく分かる」「英語の勉強は好き」と回答している傾向が見られる。

【児童生徒】家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。（新規）



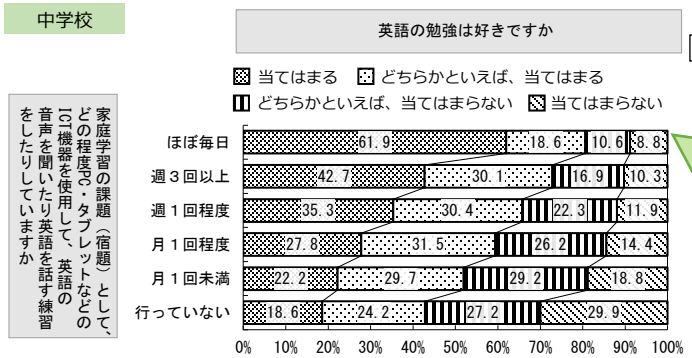
クロス集計

［家庭学習でのICT機器の使用頻度］×［英語の授業の内容はよく分かる］



「英語の授業の内容はよく分かるか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全体で見ると**28.4%**だが、
「家庭学習としてICT機器を使用した頻度」につき「ほぼ毎日」と回答した生徒のうち、
「英語の授業の内容はよく分かるか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は**62.4%**。

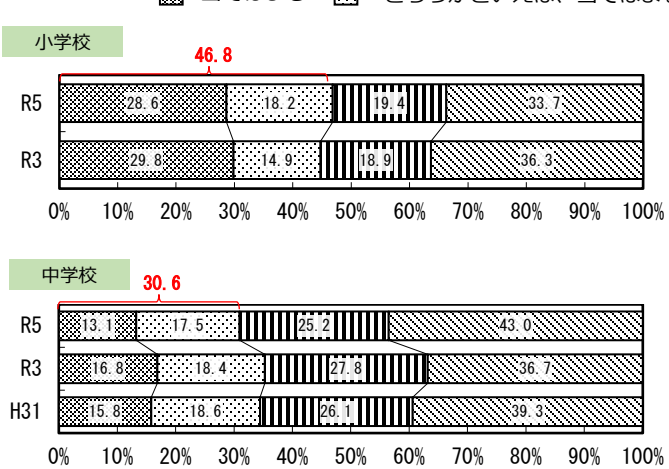
［家庭学習でのICT機器の使用頻度］×［英語の勉強は好き］



「英語の勉強は好きか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全体で見ると**25.5%**だが、
「家庭学習としてICT機器を使用した頻度」につき「ほぼ毎日」と回答した生徒のうち、
「英語の勉強は好きか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は**61.9%**。

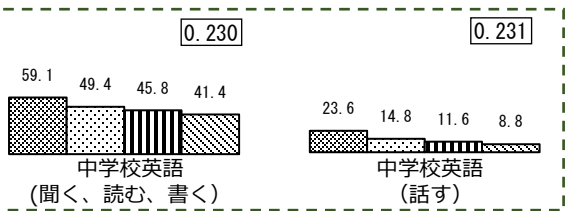
【児童】これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）

【生徒】これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか。（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）



クロス集計

英語の選択肢ごとの平均正答率



(3) ICTを活用した学習状況

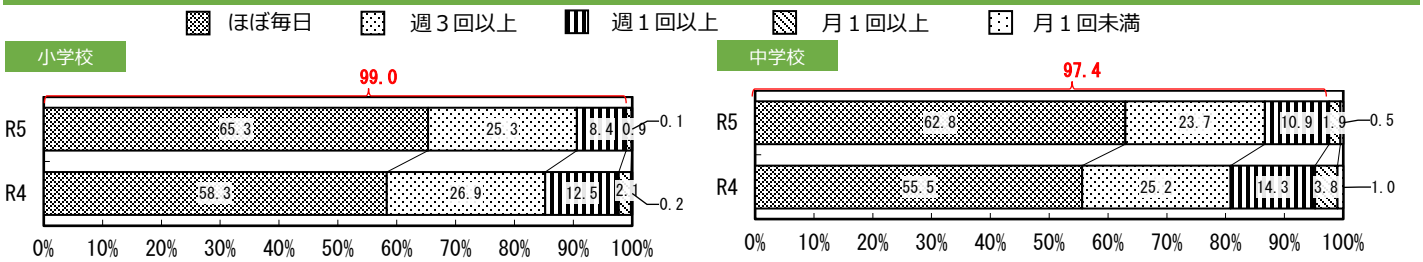
① ICTの活用状況等

分析結果のポイント

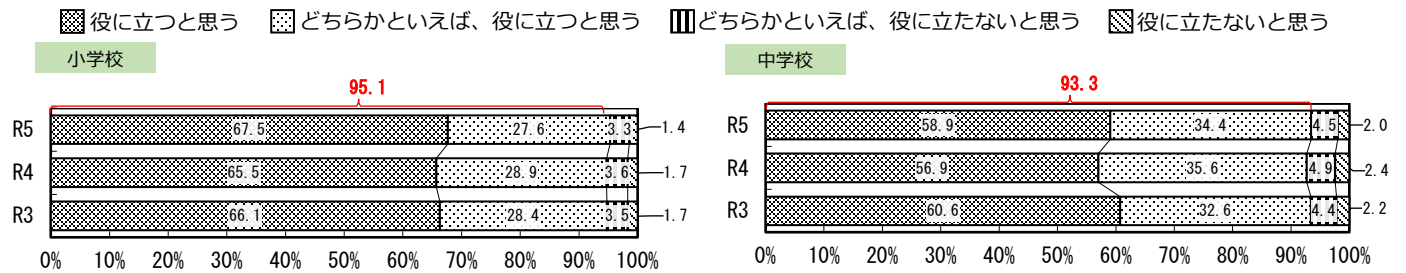
○ICT機器の活用が進んでいる。授業においてICT機器を「ほぼ毎日」活用している割合は、昨年度より小中学校ともに約７ポイント増加している。

○ICT機器が、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援や、児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されている。

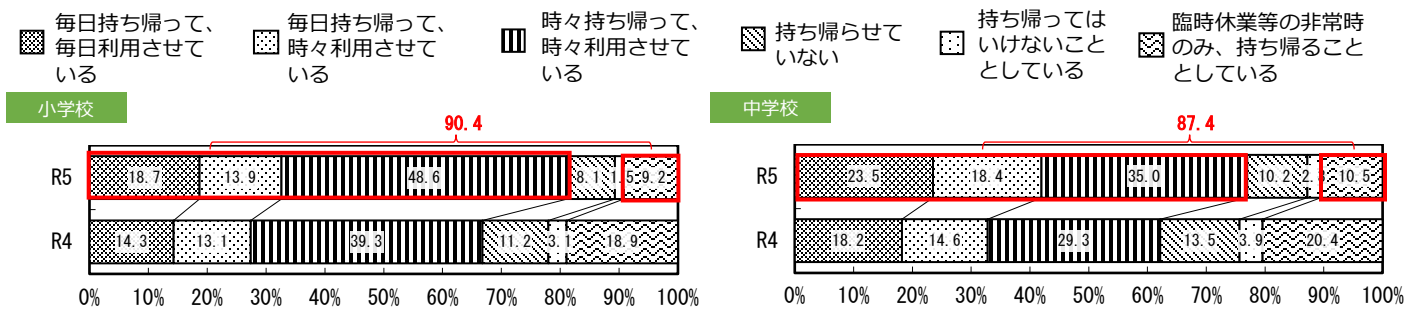
【学校】調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。



【児童生徒】学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



【学校】児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

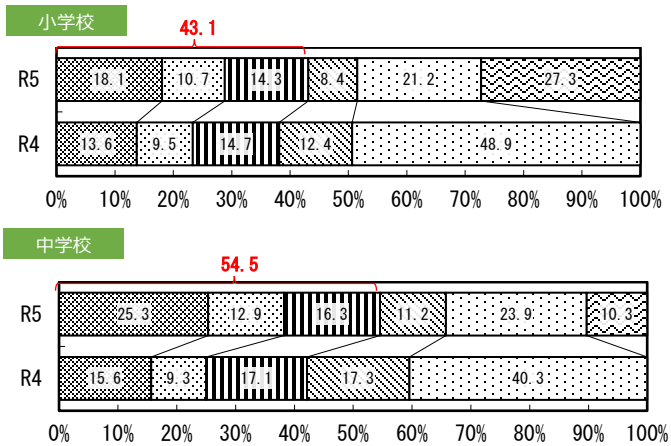


【学校】児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のような用途でどの程度活用していますか。

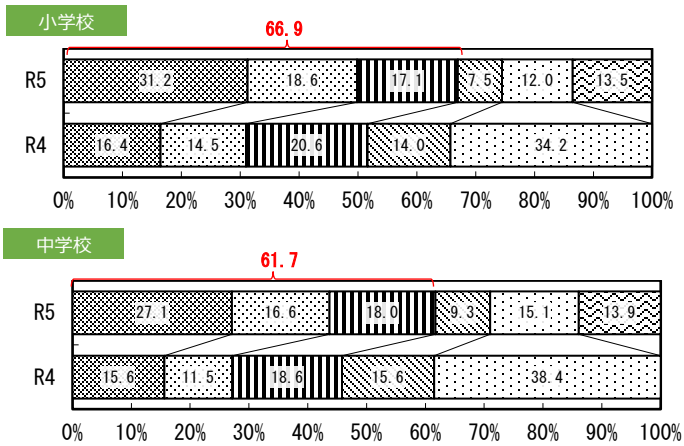
ほぼ毎日　週３回以上　週１回以上　月１回以上　月１回未満　該当する児童生徒がいなかった

※「該当する児童生徒がいなかった」はR5新規選択肢

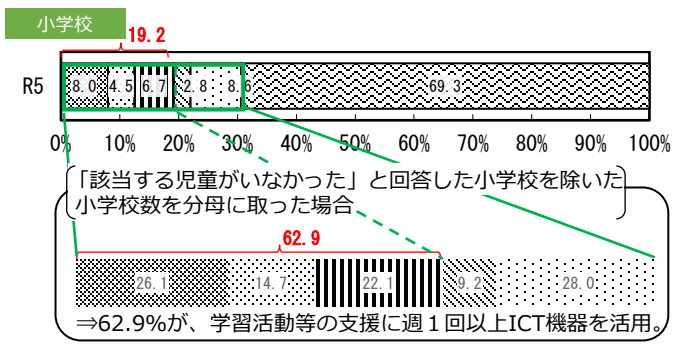
(1) 不登校児童生徒に対する学習活動等の支援

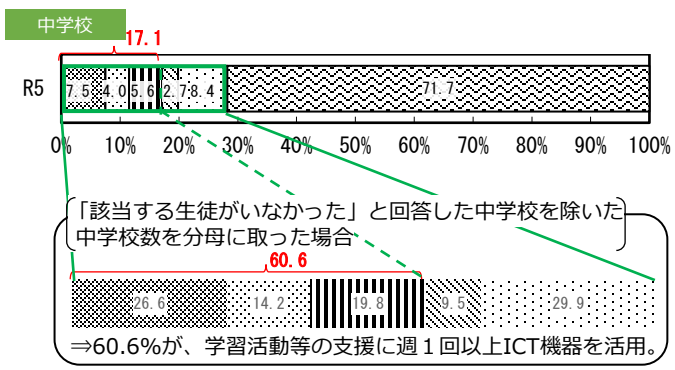


(2) 特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援

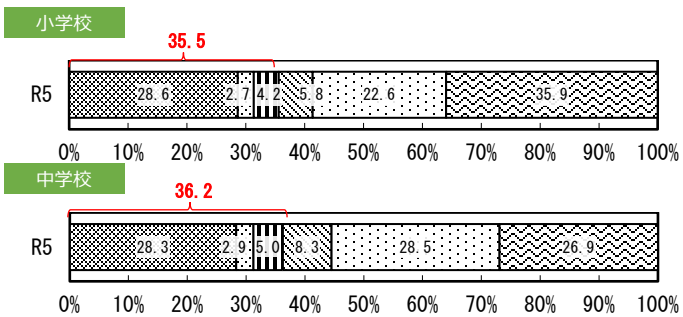


(3) 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援（新規）

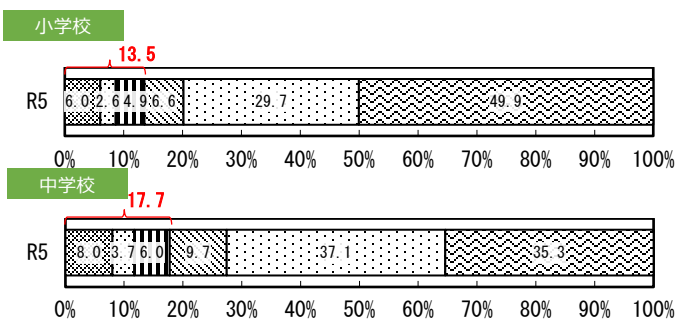




(4) 児童生徒の心身の状況の把握（新規）



(5) 児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援（新規）

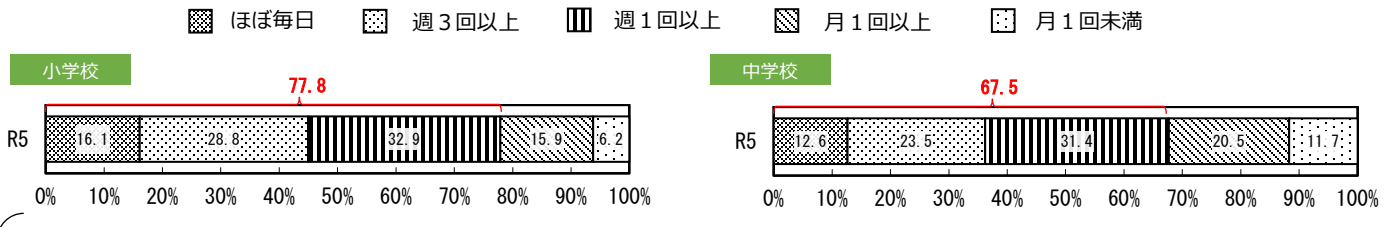


② 個別最適な学び（個に応じた指導）や主体的・対話的で深い学びにおけるICTの活用状況等

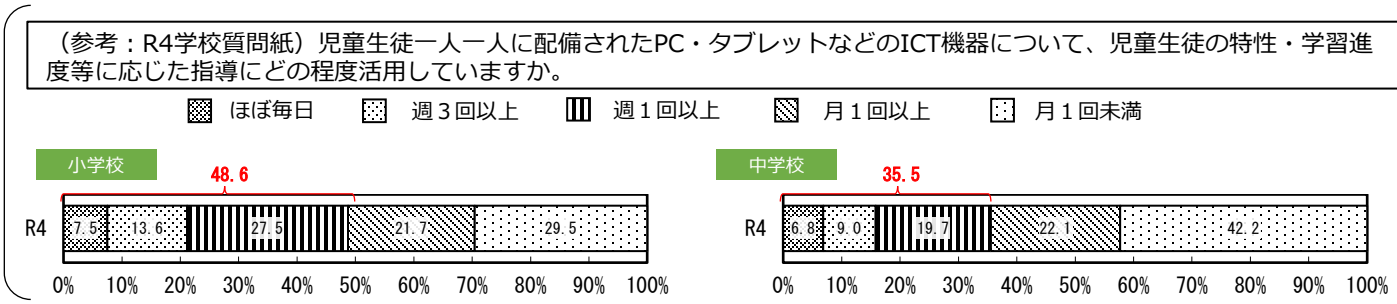
分析結果のポイント

○個に応じた指導など、授業における様々な場面でICT機器が活用されている。また、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行っている学校ほど、ICT機器を活用している傾向が見られる。

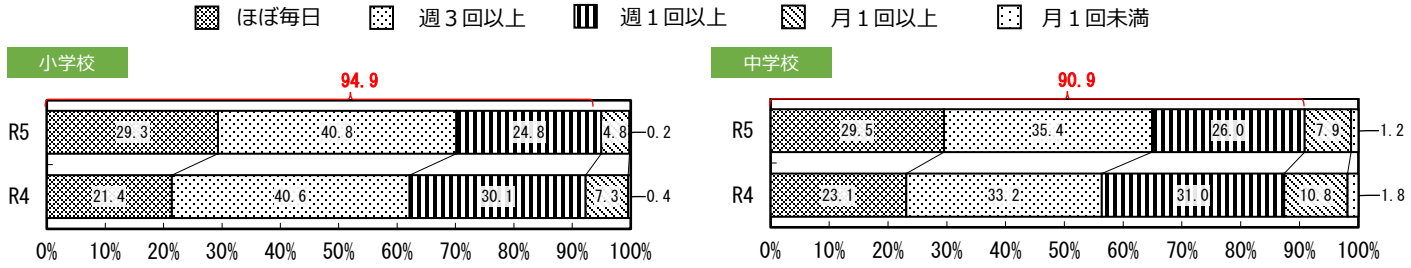
【学校】 調査対象学年の児童生徒が**自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面**では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（新規）



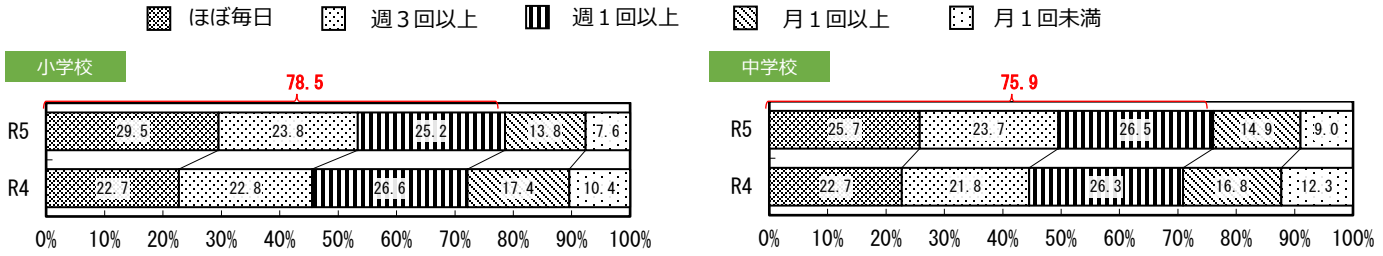
（参考：R4学校質問紙）児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童生徒の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか。



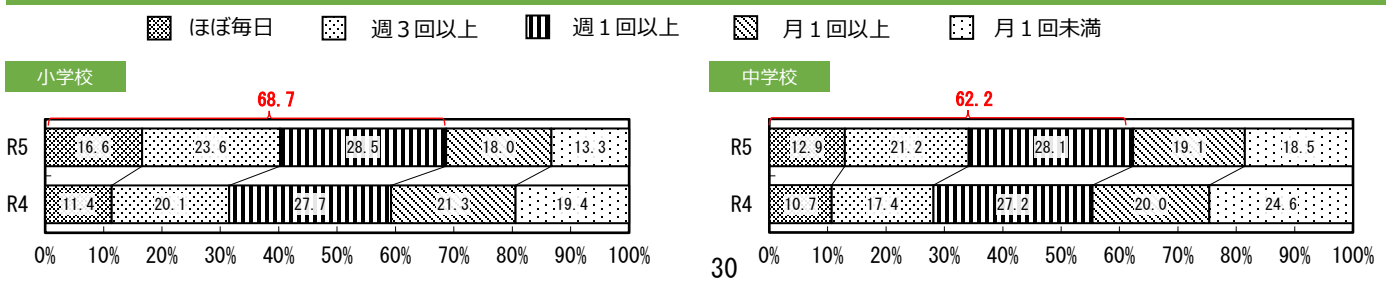
【学校】 調査対象学年の児童生徒が**自分で調べる場面**（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



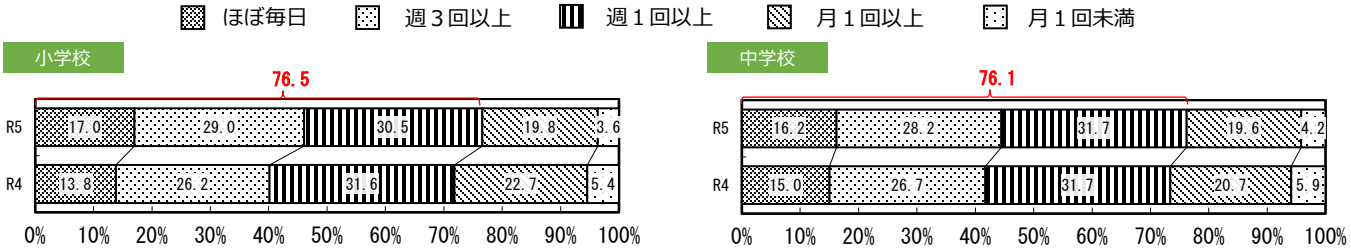
【学校】 **教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面**では、 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



【学校】 調査対象学年の**児童生徒同士がやりとりする場面**では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



【学校】調査対象学年の児童生徒が**自分の考えをまとめ、発表・表現する場面**では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



「ICT機器の活用」と「主体的・対話的で深い学び」との関係

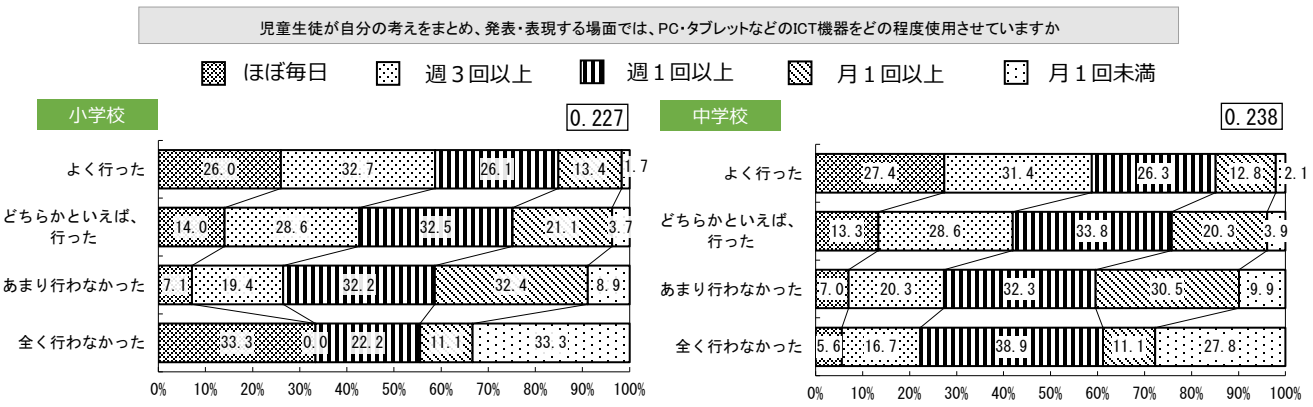
○**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行っている学校ほど、ICT機器を活用している**傾向が見られる。

○**主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒の方が、平均正答率が高い**傾向が見られる。

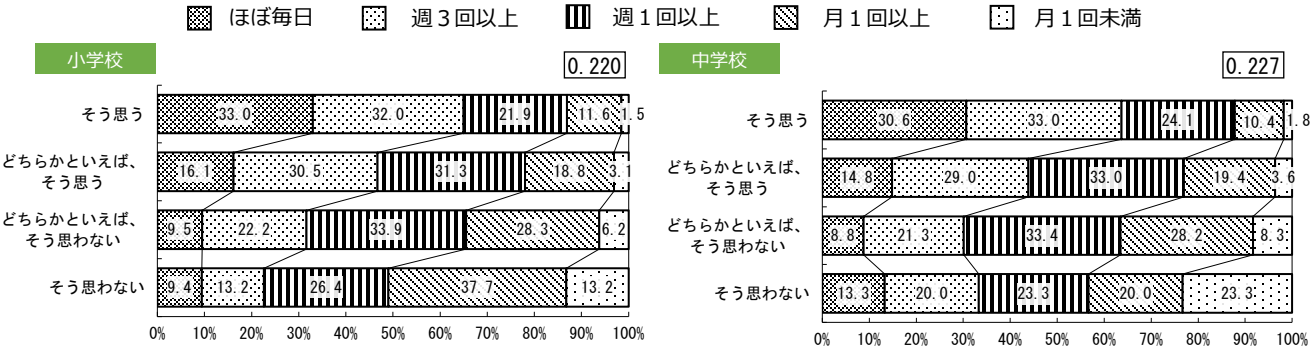
［主体的・対話的で深い学び］×［ICT機器の活用］

クロス集計

児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、発表するなどの学習活動を取り入れましたか

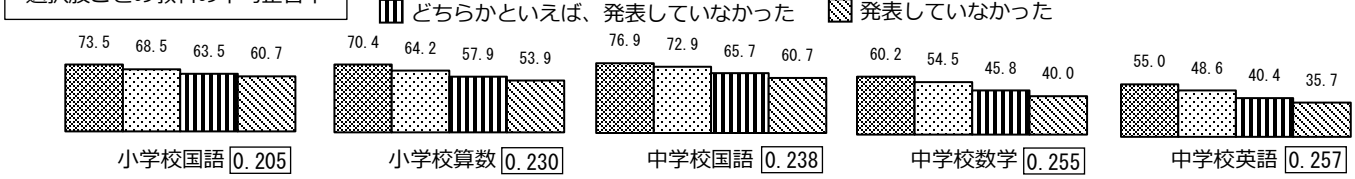


児童生徒は、学校において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか



［主体的・対話的で深い学び］と［平均正答率］との関係（再掲）

【児童生徒】５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

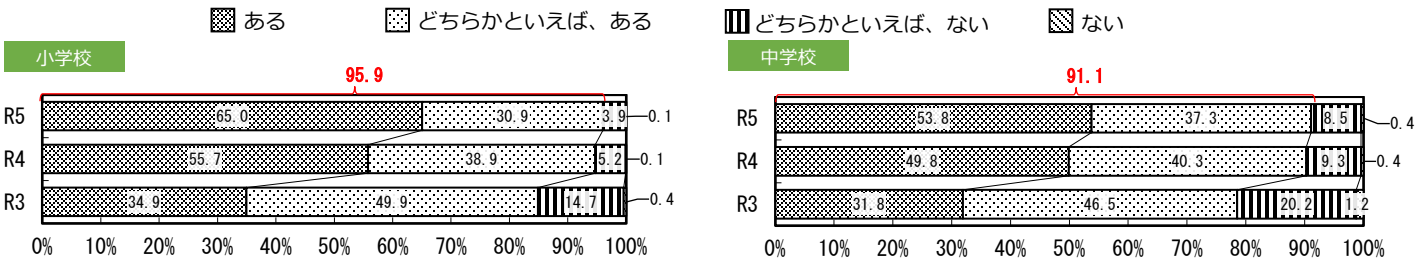


③ ICTの活用を推進するための有効な取組

分析結果のポイント

○教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会が設けられている学校の方が、ICT機器の活用が進んでいる傾向が見られた。

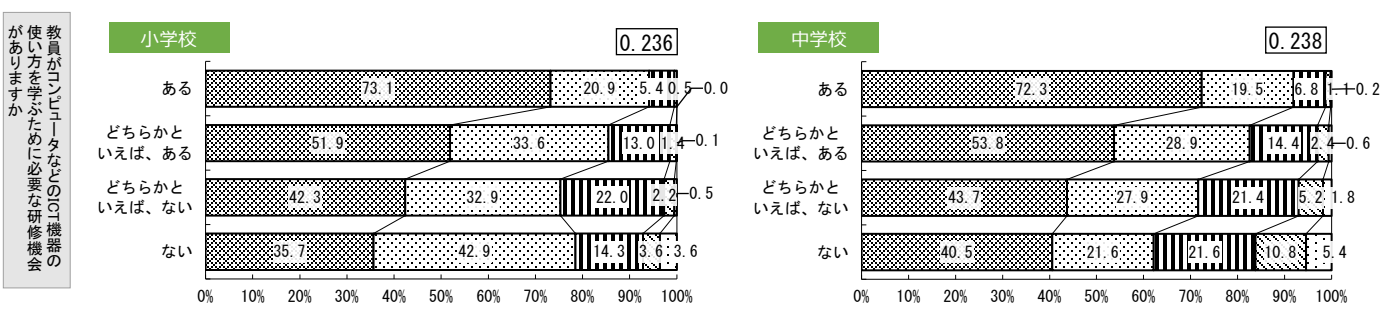
【学校】 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。



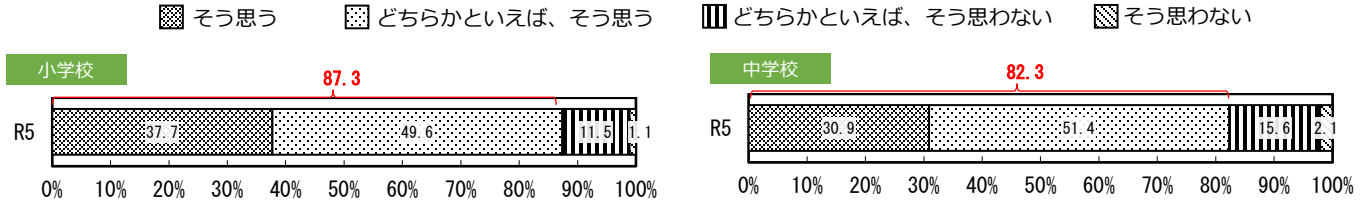
クロス集計

［ICT機器の使い方を学ぶ研修機会］×［授業におけるICT機器の活用頻度］

調査対象学年の児童生徒に対して、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



【学校】 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。（新規）



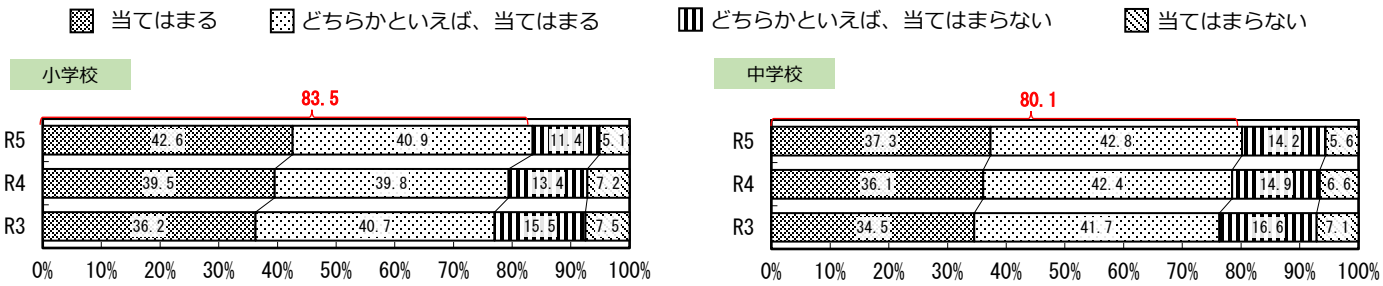
(4) 児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況

分析結果のポイント

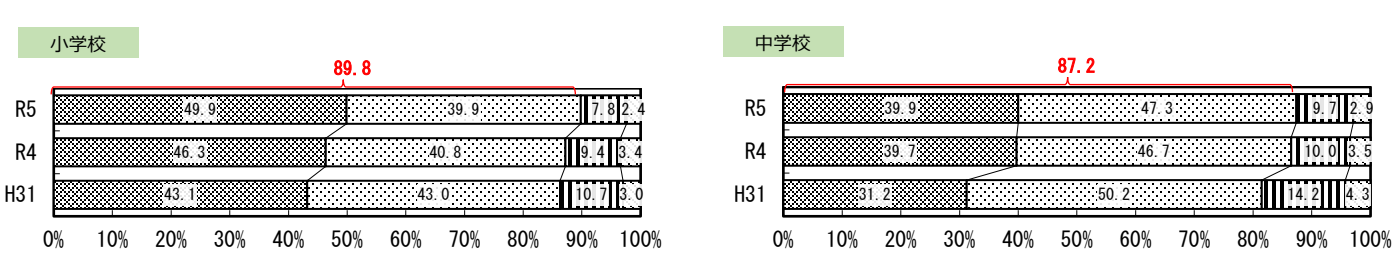
○「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問に対して、約90%の児童生徒が肯定的に回答している。

○主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びに関する設問と児童生徒の自己有用感等に関する設問との間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性がある。

【児童生徒】自分には、よいところがあると思いますか。

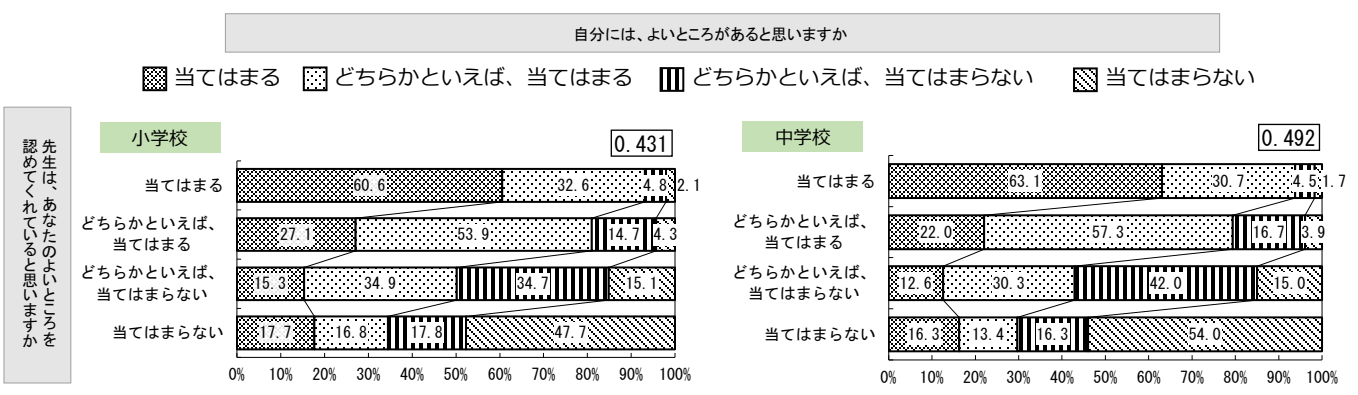


【児童生徒】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

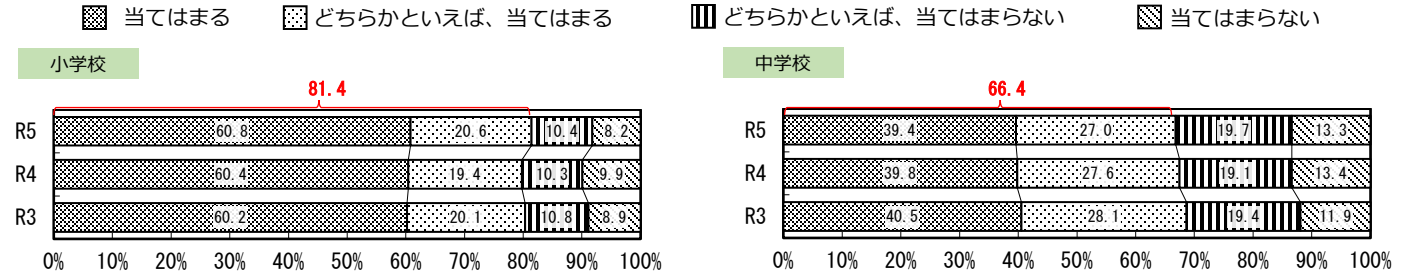


クロス集計

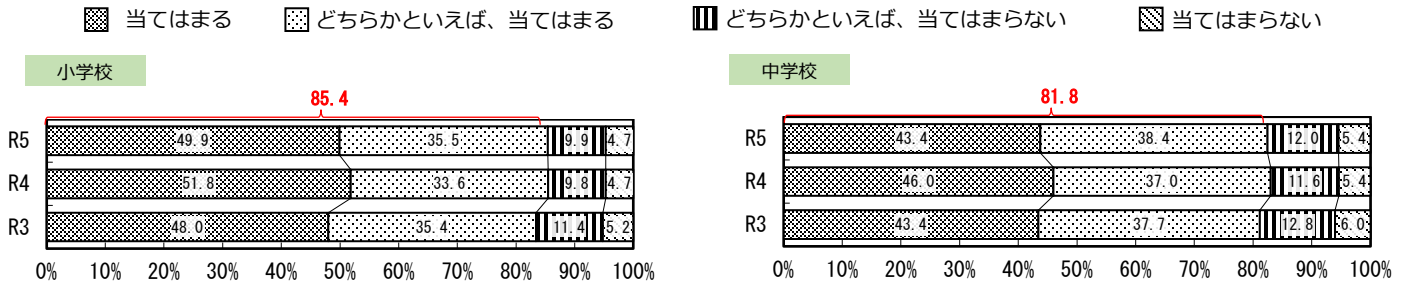
［先生がよいところを認めてくれる］×［自分にはよいところがあると思う］



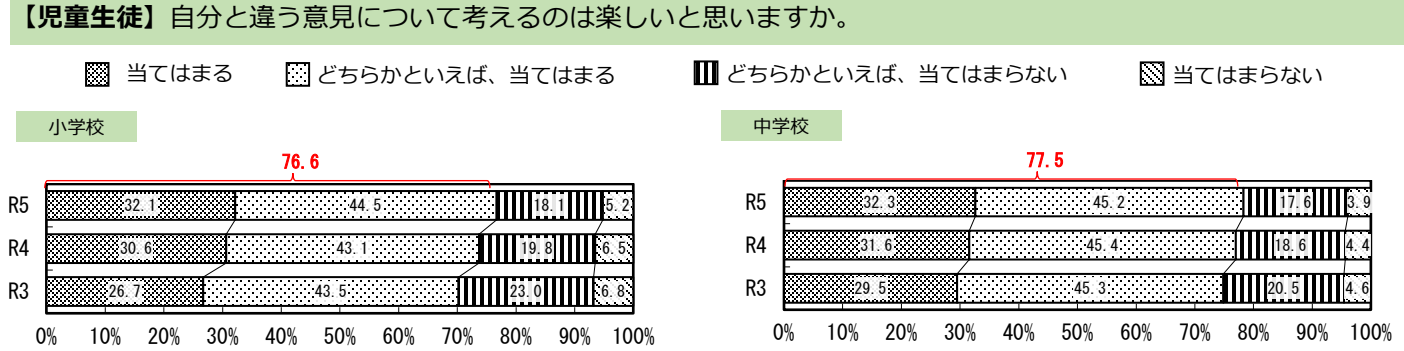
【児童生徒】将来の夢や目標を持っていますか。



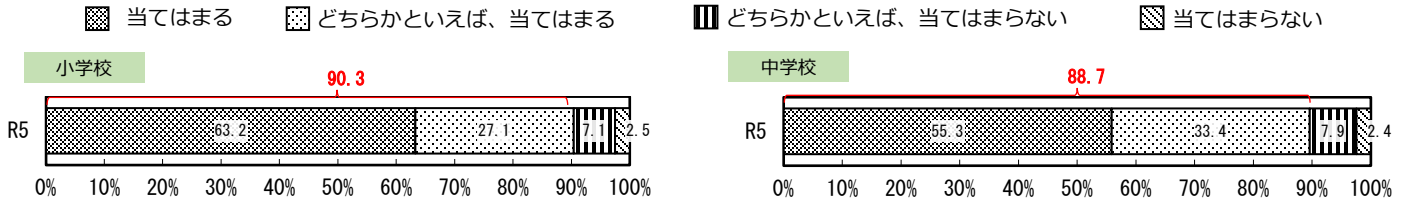
【児童生徒】学校に行くのは楽しいと思いますか。



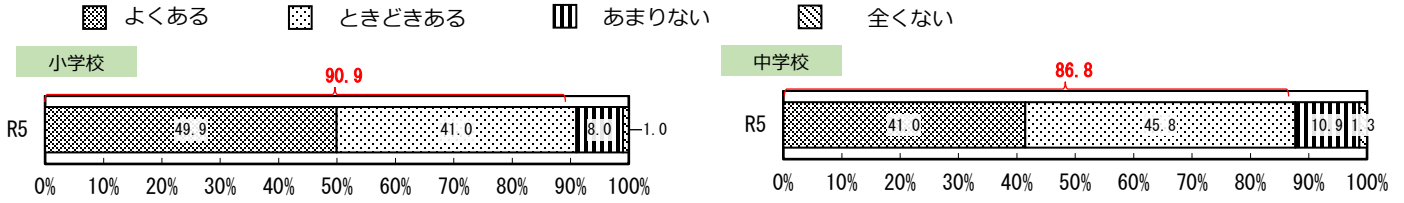
【児童生徒】自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



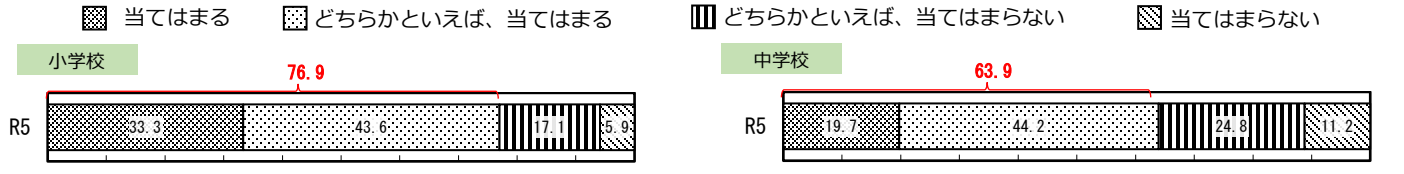
【児童生徒】友達関係に満足していますか。　（新規）



【児童生徒】普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。　（新規）



【児童生徒】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。　（新規）

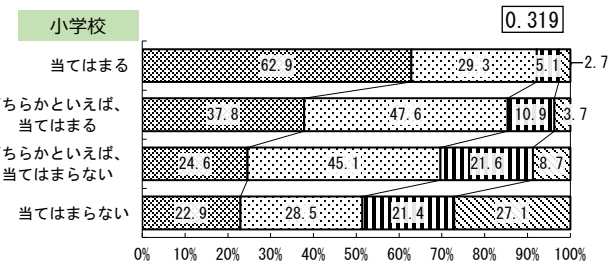


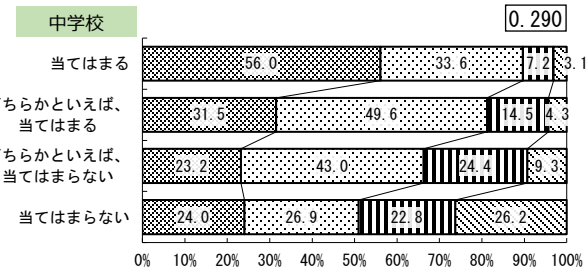
［課題の解決に向けて自分から取り組んだ］×［自分にはよいところがあると思う］

自分には、よいところがあると思いますか

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



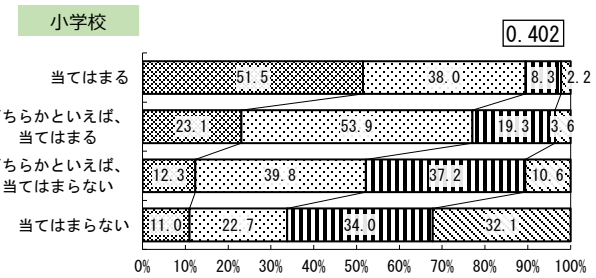


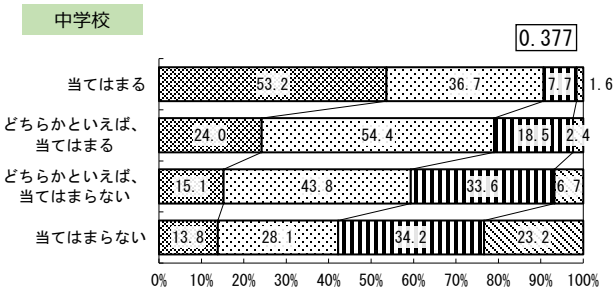
［話合いにより考えを深め広げた］×［自分と違う意見について考えるのは楽しい］

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



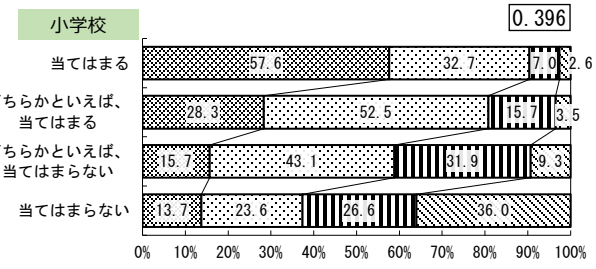


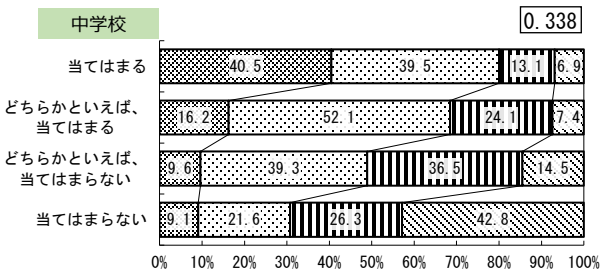
［学んだことを生かしながら考えをまとめる活動をした］×［地域や社会をよくするために何かしてみたい］

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



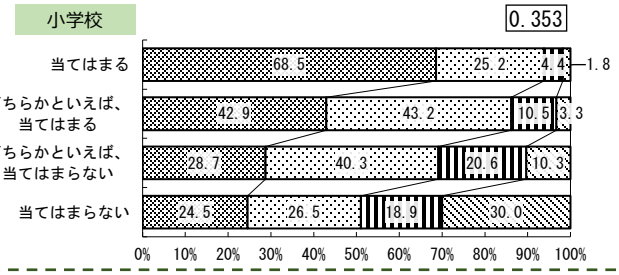


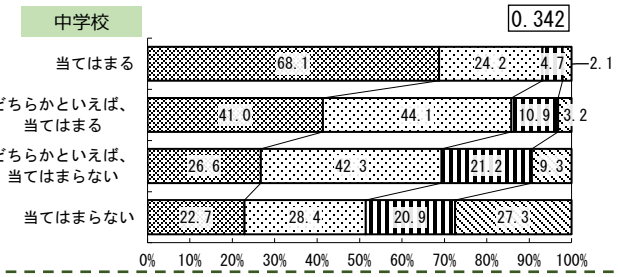
［自分にあった授業］×［学校に行くのが楽しい］

学校に行くのは楽しいと思いますか

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか





４．文部科学省の主な取組一覧

１．学習指導要領の着実な実施

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

・学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底。（各都道府県等の指導主事を対象とした協議会の開催。）

・学力向上やカリキュラム・マネジメントに関する成果のとりまとめ・周知。

○指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）

・報告書（授業アイディア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。

・全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（８月22日（火）オンライン開催）。

・オンラインなども活用しながら、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。

２．英語の学習指導の改善・充実

・教育委員会における英語力向上に向けた取組の支援（教師の英語力向上、小中連携等）。

・生きた英語に触れる機会の充実を図るため、ALT（外国語指導助手）の地方財政措置の拡充。

・教師の指導力・英語力向上のための年間を通じたオンライン研修の実施。

・海外の学校等との国際交流や協働的な学習の推進。

＜令和５年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた取組＞

・調査結果から見えた「話すこと」などの課題や指導のポイントを解説した動画を新たに作成（文部科学省YouTube channelにこれまで授業映像や解説動画を87本掲載）。

・各都道府県等の指導主事を対象とした協議会の開催や、MEXCBT（文部科学省CBTシステム）への調査問題の搭載等、調査問題を活用した学習指導の改善を促進。

・デジタルを活用したパフォーマンステストの実施促進など言語活動の充実。

３．GIGAスクール構想の更なる取組の推進

令和５～6年度を集中推進期間として、自治体・学校への伴走支援の取組を抜本的に強化。

・GIGA StuDX推進チームによる研修の実施、自治体の課題に応じた支援の提案。

・国費による学校DX戦略アドバイザーの派遣等による支援。

・切れ目のない研修コンテンツの提供。

４．児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

・道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。

５．学校における指導・運営体制の充実

・小学校における35人学級の計画的整備や高学年教科担任制の推進等のための教職員定数の改善。

・教員業務支援員や学習指導員等の支援スタッフの充実。

６．調査結果を活用した追加分析等

○令和５年度調査の結果を活用した追加分析

・令和５年度調査の英語の教科調査や質問紙調査の結果と英語教育実施状況調査の結果を重層的に分析し、英語の学力に関する課題や、英語の学力の向上に影響を与える学校・教育委員会等の取組等について分析。

○個票データの貸与

・大学等の研究者による多様な学術研究の分析や、公的機関の職員等による教育施策の改善・充実を促進するため、個票データ等の貸与を実施。